

An artistic illustration of the Tabernacle (the Tent of Meeting) at night. The structure is illuminated from within, showing its interior with a large golden lampstand (Menorah) and other furnishings. The exterior is covered in white and blue curtains. The entire scene is set against a deep blue night sky filled with numerous stars and a prominent view of the Milky Way galaxy. In the foreground, a low white wall surrounds the Tabernacle. To the right, a small fire burns in a wooden structure, with two figures standing nearby.

聖所の奉仕
からの象徴

真理の宝 パート3

目次

1. 罪の起源と終わり	5
2. 罪：その登場と根絶	10
3. 新しい生きた道	15
4. 罪人のための希望	20
5. 罪の除去	25
6. 影が投げかけられた天の奉仕	31
7. 「そして天の聖所は清められる」	36
8. 最終的な犠牲	41
9. 会衆の義務	46
10. 食事の検討事項	52
11. 食事の歴史	57
12. 靈感を受けた預言者たち	62
13. 預言者たちを試す	67
14. イエスの証	72

安息日聖書教科は、他のコメントをいっさい加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。引用文は、簡潔で直接的な見解を提供するために、可能なかぎり短くされています。ある部分では、明瞭さや、適切な前後関係、また読みやすさのために〔 〕の括弧が使われています。抜粋されている原文をさらに研究することをぜひともお勧めします。

セブンスデーアドベンチス
ト改革運動世界総会安息
日学 校 部 (P.O.Box 7240
Roanoke, Virginia 24019-
0240, U.S.A)

安息日聖書教科 Vol.99, No.3

編集&発行：
S D A改革運動日本ミッション

〒 368 - 0071
埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保
1607 - 1

TEL : (0494) 22-0465

URL :
<http://www.4angels.jp>

E-mail:
sdarm.shomaru@gmail.com

イ ラ ス ト : Illustrations:
Sermonview on the front
cover; Adobe Stock on pp.
30, 80; Map Resources on
pp. 4, 51, 80.

まえがき

わたしたちのほとんどは、見て理解する学習者です。わたしたちが何かの型や図を見るとき、たいていの場合は、その概念をよりたやすくつかみ、覚えるものです。神はこれをご存じでわたしたちの昔の先駆者たちに聖所の奉仕を備えてくださいました。奉仕とその象徴は、わたしたちの大いなる祭司キリストが今まさにこの瞬間わたしたちのために天で行っておられる厳粛な働きを、わたしたちが理解するのを助けてくれます。

ですから、これから3か月間、安息日学校の世界中の生徒たちは命のかかわる主題「聖所の奉仕からの象徴」を学んでいきます。これは一年にわたる「真理の宝」シリーズの第三番目の部分であり、わたしたちが永遠のために準備する装備となります。

「不信のユダヤ人の状態は、クリスチャンだと公言する人々の間の不注意で不信な人々の状態を描写している。彼らは故意にわたしたちの憐れみ深い大祭司の働きを知らない。型となる奉仕において、大祭司が至聖所に入るとき、すべてのイスラエル人は聖所のまわりに集まって、最も厳粛な方法で自分の魂を神のみ前にへりくだらせることが要求された。こうして彼らが自分の罪のゆるしを受け、会衆から切り離されないためであった。大贖罪の本体の日に、わたしたちが大祭司の働きを知り、自分たちにどの義務が要求されているのかを知ることが、どれほどはるかに重要不可欠なことであろう。」(聖所におけるキリスト 161)

「もし、見える世界と見えない世界とをへだてている幕が取り除かれて、人々が、審判において再び直面しなければならないすべての言行を、天使たちが記録しているのを見ることができれば、日ごとに語られるどれだけ多くの言葉が、語られずにすみ、どれだけ多くの行為が、なされずにすむことであろう。…」

天使が天にたずさえて行く記録は、実に悲しいものである。キリストの弟子であると称する英知ある人間が、世的財産の蓄積や、地上の快樂の追求に没頭している。金銭、時間、能力は、虚飾と放縱の犠牲になっている。しかし、祈りや聖書研究にあてられる時間、魂のへりくだりと罪の告白にあてられる時間は、ほとんどないのである。

サタンは、数えきれないほど多くの策略を考え出してわれわれの心を捕え、われわれが最もよく知っていない働きのものについて、われわれに考えさせまいとしている。大欺瞞者サタンは、贖罪の犠牲と全能の仲保者を明らかにする大真理を憎んでいる。イエスと彼の真理から人々の心をそらすことに、万事がかかっていることを、彼は知っているのである。」(各時代の争闘下巻 221)

「自己を抑制し、否定するための努力は日々あらたにされる必要がある。日々、戦うべき戦いがあり、勝ち取るべき勝利がある。日々、十字架の力強い勝利を求めて神に熱心に嘆願するために魂が呼び出されるべきである。」(教会への証 4 巻 429 巻)

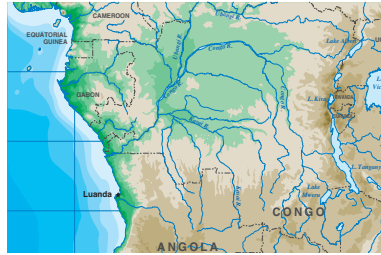
今期の安息日聖書教科によって強められ、信仰の目をもって天の聖所のわたしたちの大祭司をながめることができますように、これがわたしたちの祈りです！

世界総会安息日学校支部

第一安息日献金

南アフリカ地方の伝道学校のために

インドネシア東部とオーストラリア北部に位置しており、パプアニューギニアは、しばしば世界の最後の楽園、最後の辺境として言及されます。それはまた未知の地としても言及されてきました。パプアニューギニアは美しい国です。自然資源が豊かで、伝道者、医師、鉱山労働者が行くところですが、観光客はめったに来ません。発展途上国として、文化や言語に大きな多様性があり、パプアニューギニアには 800 もの区別された言語があり、世界で、一つの国の中に語られる言語が最も多い国です！



セブンスデーアドベンチスト改革運動は 1998 年に設立され、良い知らせがその時以来、国の北部と高地地方で多くの新しい地域に広められてきたことを、神に感謝いたします。教会や集會が、過去には魔女や異教の習慣のあった多くの場所で起こっています。

何年間か、わたしたちの兄弟の胸のうちに、この国の南部に出て行って、働きを確立させようという思いがありました。ポートモレスビー、パプアニューギニアの首都は、南部にあり、山脈や良い道路の不足により、主に空路や海路から入ります。2019 年に一人の牧師がパプアニューギニアの北部からポートモレスビー地域に派遣され、求道者のフォローをしたり、首都周辺の働きを確立したりするために、新しいミッションが始まりました。

世界の数ある報告によりますと、ポートモレスビーは世界でも最も住みがい都市です。窃盗、強盗、暴力はこの街で当たり前であり、わたしたちの兄弟たちも、神のみ働きをここで推し進めるときに、これを実際に経験してきました。働きが成功のうちに進められるために、神のぶどう畑のこの片すみに、主のための灯台を建てるための安全な地所が大いに必要です。わたしたちは神の憐れみは大きく、この地上歴史の閉じようとしているときに、手を差し伸べるべき多くの魂がいることに気づいています。ちょうどニネベのような大きな諸都市に！そこで皆さんにこの働きに加わって下さり、この灯台が建てられ、働きが前進するように惜しみなく捧げて下さるよう、お願いいたします。

「栄光を主に帰し、その誉を海沿いの国々で語り告げよ。」(イザヤ 42:12)。皆さんを豊かに祝福してくださいますように、神にお祈り申し上げます！

パプアニューギニア南ミッションの兄弟姉妹より

罪の起源と終わり

暗唱聖句：「不法の秘密の力が、すでに働いているのである。ただそれは、いま阻止している者が取り除かれる時までのことである。」（テサロニケ人への第二の手紙 2:7）

「造られたものの調和は、生物であれ、無生物であれ、すべてのものが創造主の律法に完全に一致することにかかっている。」（人類のあけぼの上巻 38）

推奨文献： 各時代の大争闘下巻 227-242

日曜日

6月25日

1. 神のご品性

- a. 神のご品性はどのように罪と対照的ですか。また、これはわたしたちにとって何を意味しますか（ダニエル書 9:7; マタイによる福音書 5:48）。

「神は、高い目標をめざすことを決心した者だけをお受けいれになる。神は、すべての人間が、最善を尽くすように義務づけられた。道徳的完全が、すべての者に要求されている。悪を行なう傾向に対しては、先天的であろうが、後天的のものであろうが、そのような傾向と妥協するために、義の標準を下げてはならないのである。品性が不完全であることは、罪であることを知らなければならない。品性のただしい属性は、ことごとく、完全な調和のとれた全体として神の中に宿っている。そして、キリストを、自分の救い主として受け入れたものは、これらの属性をみな持つ特権が与えられている。」（キリストの実物教訓 304）

- b. 神は完全において究極的なお方であるため、どのような種類の命令しかお与えになることができませんか（詩篇 119:172; ローマ人への手紙 7:12; ヤコブの手紙 1:13.）。

「神の律法は、その性質そのものから考えても、不変のものである。それは、その制定者の意志と品性の啓示である。神は愛である。そして、神の律法は愛である。その二大原則は、神に対する愛と人間に対する愛である。『愛は律法を完成するものである』（ローマ 13:10）。神の品性は、義と真理である。神の律法の性質もそうである。……神の心と意志の表現であるこのような律法は、その制定者と同様に永続的なものでなければならない。」（各時代の争闘下巻 194）

2. 神の統治における調和

a. 神格の方々の関係は、何ですか（ヨハネによる福音書 17:21）。

「キリストの使命についてわたしたちが世に与えることのできる最も説得力のある論拠は、完全な一致の中に見いだされるのである。御父と御子の間に存在する一致が、真理を信じるすべての人々の間に表されなければならない。神のみ言葉への絶対的な従順のうちに、このように一致する人々は、力に満たされるようになる。」（聖書訓練学校 1906 年 2 月 1 日）

「これがわたしたちにとって何を意味するか考えたことがあるだろうか。すなわち、この祈りの中にはキリストを自分の個人的な救い主として信じ、また悔い改め、改心、信仰、そしてバプテスマという必要な段階をとるすべてのアダムのむすこ娘たちが含まれているということを考えたことがあるだろうか。わたしたちは御父、御子、また聖霊の名によってバプテスマを受ける。そしてこれらの偉大にして無限の力を持つ方々は、もしわたしたちが彼らと協力するならばわたしたちのために働くと、一致して誓っておられるのである。」（説教と講和 2 巻 167）

b. 神の統治の基礎を形成している諸原則は何ですか（ヨハネの第一の手紙 4:16, 19; 5:3）。

『神は愛である』（ヨハネ第一 4:16）。神の性質、神の律法は愛である。それは今までもそうであったし、これからも 同じである。『いと高く、いと上なる者、とこしえに住む者』、その『永久』なるかたは、お変わりにならない。彼には、『変化とか回転の影とかいうものはない』（イザヤ書 57:15、ハバクク書 3:6 文語訳、ヤコブ 1:17）。

創造の力が現わされているものは、すべて、神の無限の愛の表現である。」（人類のあけぼの上巻 1）

「神は、人が小石を地面に投げるようにたやすくサタンとその同調者たちを滅ぼすこともおできになった。しかし神はそうならなかった。反逆を暴力によって征服してはならなかった。強制的な力はサタンの統治だけにみられるものである。主の原則はこのような種類のものではなかった。主の権威は、恩恵、あわれみ、愛の上におかれている。このような原則を示すことが用いるべき手段である。神の統治は道徳的であり、真実と愛が有力な力となるのである。」（各時代の希望下巻 283）

「神とその働きに対する愛のうちにある魂は、真昼のようにつつみ隠しのない者となる。聖書の真の意味に対して、ごまかしや言い逃れはなくなる。神のみ言葉がわたしたちのすべての教理の基礎である。ある人々は枝葉の問題に近づくことが自分たちのうちにある知性や賢さのしるしであると考え。そして彼らは真理を覆い隠すやりかたで聖書をねじ曲げてしまう。」（エル・G・ウィット 1888 年原稿 46）

3. 罪の起源はどこか？

- a. 聖書の次の節が、字義通りのツロの王について述べているのではないということが、どのようにわかりますか (エゼキエル書 28:11-15)。

(1) もしこれが象徴としてではなく実際の人間の王のことを述べているとすれば、女から生まれたということですから、どのような種類の人ということになりますか (詩篇 51:5; ローマ人への手紙 3:23)。

(2) このほかだれが唯一、エデンの園で、かつては完全であったが後に罪深いものとなった存在でしたか (ヨハネの黙示録 12:9; 創世記 3:14)。

「最初に罪を犯した者は、神から大いに高められたものであった。彼は権力と壮麗さに栄えたツロの君の人物像に表されている。サタンは少しずつ自己称揚の欲望にふけるようになってきた。…彼のすべての栄光は神から来ているにもかかわらず、この大天使はそれを彼自身に属するものとみなすようになってきた。天の軍勢よりも高い誉を与えられていたにもかかわらず、彼は自分の地位に満足せず、創造主にもみ当然払われるべき敬意を彼は危険を冒してまで切望した。全被造物の最高の愛情と忠誠を神にささげさせるよう求める代わりに、彼らの奉仕と忠誠を自分が得ようと努めた。そして無限なる天父が御子にお与えになった栄光をむさぼり、この天使の君はキリストだけの特権であった権力を渴望した。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 4 巻 1162)

- b. 墮落する前、ルシファーは神の統治において、どのような特別な役割を果たしていましたか (エゼキエル書 28:14 (出エジプト記 25:10-22 にある聖所の奉仕を参照のこと))。
- c. 彼には特別な音楽の才能があったことを、何が示していますか。また彼はどのようにこの才能を自分の欺瞞の働きにおいて巧みに用いましたか (エゼキエル書 28:13; ダニエル書 3:5-7)。

「わたしは真理を信じると公言する青年男女の浮薄さを至る所に目撃して、驚いている。神は彼らの思いの中にはおられそうもない。彼らの心は軽薄なことでは一歩いになっている。

彼らの語ることは意味のないむなしい事だけである。彼らは音楽に対して敏感な耳を持っている。そしてサタンはキリストを望まないように心を活発にし、夢中にし、魅惑するには、どの器官を刺激したらよいかを知っている。聖なる知識を求め、恵みに成長することを求める心の霊的渴望は欠けている。」(アドベントリスト・ホーム 462, 463)

4. 悪の根

- a. この出来事に関するエゼキエルとイザヤの描写を比較すると、ルシファーの墮落の根本的な原因は何でしたか（エゼキエル書 28:16-19; イザヤ書 14:12-20）。

「ルシファーは、少しずつ自己を高めようという野望にふけるようになった。『あなたは自分の美しさのために心高ぶり、その輝きのために自分の知恵を汚した』（エゼキエル書 28:17）。…この偉大な天使の栄光のすべては神から与えられたものであったにもかかわらず、彼はそれを自分のものであるかのように思うようになった。彼は、天の軍勢にまさる大いなるほまれを受けていたが、自分の地位に満足しないで、創造主だけに向けられなければならない尊敬を受けたいと望むようになった。彼は、神をすべての被造物の愛と忠誠を受ける最高のかたとするかわりに、自分で彼らの崇敬と忠誠を受けようと努めた。そして、この天使のかしらは、無限の父である神がみ子にお与えになった栄光をほしがり、ただキリストだけが持つておられた力を自分のものにしようと熱望した。」（人類のあけぼの上巻 4, 5）

- b. この経験からわたしたちは個人的にどのような警告を受けることができますか（箴言 16:18; コリント人への第一の手紙 10:12）。

「もしルシファーが、ほんとうにいと高き神のようになろうと望んだのだったら、彼は決して天における自分の定められた地位を捨てなかったであろう。なぜなら、いと高き神の精神は、無私の奉仕のうちにあらわされるからである。ルシファーは、神のご品性を望んだのではなくて、神の権力を望んだのであった。彼は自分のために最高の地位を求めたが、彼の精神に動かされる者はだれでもみなこれと同じことをするのである。」（各時代の希望中巻 211, 212）

「誇りと野心を抱くときに、人は人生において必ず失敗する。というのは、誇りは必要を感じないので、天の無限の祝福に対して心を閉ざしてしまうからである。」（国と指導者上巻 35）

- c. 天の万軍は、どのようにしてこの不協和音をどのようにその隊列から取り除きましたか（ヨハネの黙示録 12:7-9）。

「神の統治に対する反逆は、最高の犯罪であった。全天が動乱のうちにあるようだった。御使たちは群れとなって進軍し、各支部の先頭に司令官となるより高い地位の御使がいた。サタンは神の律法に対して戦っていた。なぜなら、自分自身を高めようとする野心を持ち、天の最高司令官であられる神の御子の權威に従いたくなかったからであった。」（預言の霊 1 巻 22）

5. 悪の終わり

- a. 天から追放された後、サタンはどのように、さらにまた墮落しましたか（ヨハネによる福音書 8:44）。

「サタン、偽りの父は、アダムを欺いた。…彼はアダムに神に従う必要はない、もし律法に違反したとしても死ぬことはないであろうと告げた。しかしアダムは墮落し、彼の罪によってわたしたちの世界に災いの水門を開いてしまった。またサタンはカインにも供え物として小羊を殺すということに表わされていた神の明確な命令に従う必要はないと言った。カインは欺く者の声に従った。…

わたしたちはどのような声に耳を傾けているのか、それが真の生ける神の御声であるか、それとも大いなる背信者の声であるかを自分で知る必要がある。」（伝道上巻 598）

- b. どのように、またなぜ、最終的に悪の根は滅ぼされますか（ヘブル人への手紙 2:14；マラキ書 4:1-3；ペテロの第二の手紙 3:9-14）。

「まず、反逆が天で始まったそのときから、ついに、それがくつがえされて、罪が完全に根絶されるまでの善悪の斗争闘の歴史もまた、神の不変の愛の実証である。」（人類のあけぼの上巻 2）

- c. 悪がすぐに罰せられていないように見えても、神はその完全な根絶について、どのような約束を与えておられますか（伝道の書 8:11；ナホム書 1:9）。

「斗争闘は終わった。もはや罪はなく罪人もいない。全宇宙はきよくなった。調和と喜びのただ一つの脈拍が、広大な大宇宙に脈打つ。いっさいを創造されたおから、いのちと光と喜びとが、無限に広がっている空間に流れ出る。最も微細な原子から最大の世界に至るまで、万物は、生物も無生物も、かげりのない美しさと完全な喜びをもって、神は愛であると告げる。」（各時代の斗争闘下巻 467）

個人的な復習問題

1. 神はどのようなご品性を持っておられますか。
2. 神格のお三方はどのように調和して働いておられますか。
3. エゼキエルはどのような描写の下に罪の起源を述べていますか。
4. 何が悪の起源となっており、克服するのが最も難しい罪の一つですか。
5. 悪はどのように、またなぜ最終的に終わりに至りますか。

罪：その登場と根絶

暗唱聖句：「また、彼らにわたしのために聖所を造らせなさい。わたしが彼らのうちに住むためである。」（出エジプト記 25:8）

「イスラエルの人々は、長い間偶像教徒と接触していたために、彼らの礼拝に異教の習慣を多く取り入れていた。そこで、主は、シナイで犠牲の儀式に関して明確な指示をお与えになった。」（人類のあけぼの上巻 432）

推奨文献： 人類のあけぼの上巻 405-423

日曜日

7月2日

1. はじめに

- a. 神はごくはじめにどのような世界をお造りになりましたか（創世記 1:31; 伝道の書 7:29）。
- b. 神は人類が永遠に生きるように計画されたにもかかわらず、なぜエデンの園に二本の木がおかれたのでしょうか（創世記 2:9）。

「わたしたちの初めの両親が美しいエデンの園に置かれた時、彼らは神への忠誠心に関してテストされた。彼らは神に仕えるか、または不従順によって神と人の敵との同盟を結ぶかのいずれかを選ぶ自由があった。もし彼らが神が禁じられたものに対して自制したなら、彼らは美しいエデンの家を所有し続けることができ、神の恩恵の下にいたであろう。しかしもし彼らが神の命令を無視し、蛇を通して語るサタンの声に耳を傾けるなら、彼らはエデンの権利だけでなく、命そのものの権利も失うことになるのであった。罪に対する罰は彼らの前に定められており、彼らは神の要求に従うか従わないかの行動に応じて重大な結果が生じるということが知らされた。」（サイズ・オブ・ザ・タイムズ 1890 年 5 月 12 日）

- c. 人類が従わなかったとき、それが罪であるということが、どのように表れましたか（ローマ人への手紙 5:12, 19）。

「主はエデンでアダムに要求されたのと同じ神の律法への完全な従順をこの時代にも要求しておられる。」（信仰と行い 89）

2. 罪の後

- a. 死の宣告を逃れる方法がなかったのは、なぜですか（創世記 2:17; ローマ人への手紙 6:23; 7:5）。

「善悪を知る木の実を食べた結果は、すべての人間の経験にあらわれている。人の性質には、悪への傾向、すなわち自力だけでは抵抗し得ない一つの力が働いている。」（教育 21）

- b. 罪の当然の結果が死であるのはなぜですか（エゼキエル書 18:20（上旬）；ヨハネの第一の手紙 5:12）。

「サタンの反逆は、きたるべきすべての時代にわたって、全宇宙にとって一つの教訓、すなわち罪の本性とその恐ろしい結果についての永久的なあかしとなるのであった。サタンの支配がもたらすもの、人と天使たちに及ぼすその影響は、神の権威を無視することがどんな結果になるかを示すのであった。それはまた、神のお造りになったすべての被造物の幸福は、神の統治及びその律法の存在と切っても切れない関係にあるということを証明するのであった。このようにして、この恐るべき反逆の実験の歴史は、すべての聖なる知者たちにとっての永久的な保障となり、彼らが不法の性質についてだまされることがないようにし、彼らが罪を犯してその刑罰を受けるようなことがないようにするのであった。」（各時代の大争闘下巻 236）

- c. 何が神から離れること、つまり命から離れることを生じさせますか（イザヤ書 59:2）。

「人類は罪を犯したために、神から追放されてしまった。救済の計画がなかったなら、神よりの永遠の別離と、常夜のはてしないやみが、人類の運命となったであろう。しかし、救い主の犠牲によって、再び神と交わることができるようになった。われわれは、自分だけでは、神のみ前に近づくことも、神のみ顔を仰ぎ見ることもできない。ただ救い主イエスにあって、神を仰ぎ見ることも、また神と交わることもできるのである。」（教育 20）

「福音宣伝の働きがはかどったり妨げられたりするときに、われわれはその結果を自分自身や世人とむすびつけて考えるが、これを神とむすびつけて考える人は非常に少ない。罪のために創造主が受けられた苦しみを思う人は非常に少ない。全天はキリストと苦しみを共にしたが、しかしその苦悩はキリストが人性をとって現われたときに始まったのでもなければ終わったのでもない。十字架は、罪が初めてあらわれたときから神の心に生じた苦痛を、われわれの鈍い感覚に示すものである。人が正しいことから離れるたびに、残酷な行ないをするたびに、人性が神の理想に到達できないたびに、神は悲しまれるのである。」（同上 311）

- d. 罪とは何ですか。またそれから逃れる方法がありますか（ヨハネの第一の手紙 3:4; ローマ人への手紙 3:23）。

3. のがれる道

- a. 本当のへびはだれであり、彼は全世界に対して何をしてきましたか（ヨハネの黙示録 12:9; ペテロの第二の手紙 2:19; ローマ人への手紙 8:22）。

「真理の源から分離しているとき、人間の性質には神のご意志や方法に対する継続的な反対がある。肉体的、精神的、道徳的存在はすべて性急な衝動の支配下にある。愛情は腐敗し、賢明な活用のために人間に託されたすべての能力は麻痺している。人は不法と罪のうちに死んでいる。傾向が動かし、情欲が支配権を握り、彼の食欲は自分の気づいていない権力下にある。彼は最もみじめな奴隷状態にありながら、解放や行動の自由について語る。彼は自分自身のものではない。彼は真理の美しさを見ることを許されていない。なぜなら肉の思いは神に敵対しており、このお方の律法の支配の下にいないからである。彼は真理を虚偽とみなし、虚偽を真理とみなす。サタンに支配されている心は道徳的な力が弱いのである。」（レ・ユ・アンド・ハルド 1891 年 2 月 17 日）

- b. 何がわたしたちを奴隷状態のままにしますか（ローマ人への手紙 6:16; 8:5）。
- c. あがないの計画はどのように最初にこの宇宙に発表されましたか。またどなたが女のすえですか（創世記 3:14, 15; 22:18; ガラテヤ人への手紙 3:8, 16, 29）。

「アダムがサタンの誘惑に屈し、神がしてはならないと明確に言われたことをした瞬間、キリスト、すなわち神の御子が生きている者と死者との間に立って言われた『刑罰をわたしに下してください、わたしが人の代わりになります。彼にもう一度機会を与えてください』。違反により全世界が死刑宣告を受けた。しかし天では『わたしは贖い代を得た』という声が聞かれた。」（サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1900 年 6 月 27 日）

- d. すべての信徒のうちにおかれた「恨み」（創世記 3:15）は、パウロによって、どのように描写されていますか（ローマ人への手紙 12:2）。

「信仰を働かせることほど、急速に信仰を鼓舞するものはない。（国と指導者上巻 316）

「神の賜物を受け入れることのできる信仰は、それ自体が賜物であり、それはすべての人に幾分か与えられている。神のみ言葉をわがものとするために信仰を働かせるときに信仰は成長する。信仰を強めるためには、神のみ言葉にたびたび接触しなければならない。」（教育 300）

4. 血の犠牲

- a. あがないの計画において、なぜ聖書研究が命にかかわるほど重要なのですか（ローマ人への手紙 10:17; テモテへの第二の手紙 4:2）。
- b. キリストはいつ、またなぜ、ご自分のかかどが碎かれるために来ることを（創世記 3:14, 15）、選ばれたのですか（ヘブル人への手紙 2:14, 15; ローマ人への手紙 8:2, 3; 16:25, 26; ヨハネの黙示録 13:8）。

「恵みの契約は新しい真理ではなく、永遠から神のみむねにあったものである。そのためこれは永遠の契約と呼ばれている。」（信仰によってわたしは生きる 77）

「十字架におけるキリストの死は死の支配力を持つ罪の創始者の破滅を確かなものとした。サタンが滅ぼされると、悪に誘われるものはいなくなり、贖いは二度と繰り返される必要がない。そして神の宇宙において再び反逆が起きる危険性がなくなるのである。この暗黒の世において効果的に罪を抑制する唯一のものが、天国において罪を防止するのである。キリストの死の重要な意味が聖徒たちとみ使いたちとに明らかにされる。墮落した人間は世の初めからほふられた小羊なくしては神のパラダイスに住まいを持つことができなかった。そうであるなら、われわれはキリストの十字架を勝ち誇るべきではないだろうか。天使たちはキリストに栄光と誉とを帰す。それは彼らでさえも神の御子の苦悩を仰ぐことによるのみ安全だからである。天のみ使いたちが背教から守られているのは、十字架の効力によるのである。彼らも十字架による以外はサタンが墮落する以前の天使たちと同様に悪に対して安全ではないのである。天使の完全は天において全うされなかった。人間の完全は幸せな楽園エデンにおいて失敗に終わった。天国でも地上においても安全であることを望む者はみな、神の小羊を仰ぎ見なければならない。」（SDA パイブル・コメント [E.G. ホワイト・コメント] 5 巻 1132）

- c. なぜ血の捧げものが必要でしたか（ヘブル人への手紙 9:22）。

「墮落した人間はその罪のためにもはや神の御前に出て直接嘆願することができなくなった。なぜなら彼の神の律法への違反は聖なる神と違反者との間に越えられない障壁を置いたからである。しかし死刑宣告は身代わりとなるお方の上に置かれるという計画が立てられた。人の罪の結果として死が必ず訪れるのであるから、救いの計画には血が流されなければならなかった。犠牲の捧げものの獣はキリストを予表するものであった。人は殺された犠牲の中に『きっと死ぬであろう』という神のみ言葉がその時に成就するのを見るのであった。そして犠牲から流れる血はまた贖罪をも意味するのであった。動物の血に価値はなかった。しかし獣の血を流すことはいつかこの世に来られ人々の罪のために死なれる救い主を指し示すものであった。そしてこうしてキリストはご自分の御父の律法を完全に擁護されるのであった。」（闘争 21, 22）

5. 象徴

- a. なぜ動物の犠牲が取り入れられたのですか（創世記 3:21; ヘブル人への手紙 2:14, 15）。

「アダムにとって、最初の犠牲をささげることは、非常に心の痛む儀式であった。彼は、神だけが与えることのできる生命を奪うために、手を振り上げなければならなかった。彼が死を見たのはこれが最初であった。もし彼が神に服従していたならば、人間も獣も死ぬことはなかったことを悟った。彼が罪のない 犠牲を殺したとき、自分の罪のために、傷のない神の小羊の血を流さなければならぬことを考えて、ふるえおののいた。神の愛するみ子の死によらなければ、償うことのできない自分の罪の大きさを、この光景は、さらに深くなまなましく彼に示した。罪を犯した者を救うために、そのような犠牲をお与えになる無限の恵みに彼は驚いた。暗く恐ろしい未来に希望の星が輝いて、それが、全く絶望的になるのを防いだ。」（人類のあけぼの上巻 61）

- b. なぜ小羊が犠牲とされたのでしょうか、そしてどのようにこれは儀式全体の中で行われたのでしょうか（創世記 4:2-4; ヨハネによる福音書 1:29; 出エジプト記 25:8）。

「モーセは、山にいた間に、神のご臨在が特別にあらわされる聖所の建築について指示を受けた。……これから、人々は彼らの王であられるおかたに臨在していたのであった。」（同上 367）

- c. 神のご臨在を象徴するために幕屋が使われたのはなぜでしょうか（ヨハネの黙示録 21:3, 4）。

個人的な復習問題

1. なぜエデンの園に二本の木がおかれたのでしょうか。
2. なぜ、神のご意志や方法に反対する当然結果は死なのか。
3. 人類家族のうちに奇跡的におかれた恨みとは、実際には何でしょうか。
4. 人類の回復において、正しい血の犠牲はどれほど重要ですか。
5. なぜ小羊は救いの象徴の中心であり、またすべての儀式の奉仕において中心的な象徴なのでしょうか。

新しい生きた道

暗唱聖句：「もし、わたしたちが敵であった時でさえ、御子の死によって神との和解を受けたとすれば、和解を受けている今は、なおさら、彼のいのちによって救われるであろう。」（ローマ人への手紙 5:10）

「信仰の目をもってイエスをたえずながめることによって、われわれは強められる。神は、飢えかわいているご自分の民に最もとうとい啓示をお与えになる。彼らはキリストが自分自身の救い主であることを発見する。キリストのみことばを食べるときに、彼らは、それが霊でありいのちであることを知る。みことばは、生れながらの世俗的な性質を滅ぼし、イエス・キリストのうちにある新しいいのちを与える。…人を生れ変らせる神の恵みの力によって、神のみかたちが、弟子のうちに再現され、彼は新しい人間となる。愛が憎しみに入れ代り、心は神のみかたちにかたどられる。」（各時代の希望中巻 141）

推奨文献： 各時代の希望中巻 127-147

日曜日

7月9日

1. とこしえの岩

- a. クリスチャンの信仰の基礎の強さを表すためにどのような描写が用いられていますか（出エジプト記 17:5, 6; 申命記 32:4; コリント人への第一の手紙 3:11; 10:4）。

「その岩は、ご自分の死によって、かわいているすべての者に向かって救いの生ける水を流れさせてくださるキリストの象徴であった。キリストのみことばは生命の水であった。……サタンは、キリストを打つことによって、いのちの君を滅ぼそうと思ったが、打たれた岩からは生ける水が流れ出た。」（各時代の希望中巻 234）

- b. イエスはどのようにしてこの世に来られることを選ばれたのですか、それはなぜですか（ルカによる福音書 2:9-12）。

「アダムがエデンで罪を知らなかったときでさえ、神のみ子が人の性質をおとりになることは無限の屈辱に近かった。ところがイエスは、人類が四千年にわたる罪によって弱くなっていた時に人性をおとりになったのである。アダムのすべての子らと同じように、イエスは遺伝という大法則の作用の結果をお受けになった。そのような結果がどのようなものであるかは、イエスのこの世の先祖たちの歴史に示されている。主は、われわれの苦悩と試みにあずかり、罪のない生活の模範をわれわれに示すために、このような遺伝をもっておいでになったのである。」（同上上巻 35）

2. 奇跡を働く

- a. メシヤのために道を備えた者についてわたしたちは何を認めるべきですか、また彼の働きは奇跡とどのように関わっていたでしょうか（マラキ書 4:5; マタイによる福音書 11:14; ルカによる福音書 7:28; ヨハネによる福音書 10:41）。

「〔バプテスマの〕ヨハネは友からまた贅沢な暮らしから自らを引き離した。ラクダの毛で織られた彼の衣服の単純さは、ユダヤの祭司たちや、一般の人々の贅沢さや誇示に対する永続的な譴責であった。イナゴ豆と野蜜という純菜食であった彼の食事は、いたるところに蔓延していた食欲と暴食への譴責であった。ヨハネがエリヤの霊をもってキリストの初臨に道を備えたように、キリストの再臨に道を備える人々は忠実なエリヤによって表されている。改革という偉大な主題は激しく揺り動かされるべきであり、人々の心をかき立てるべきである。」（教会への証 3 巻 62）

- b. イエスのどの活動によって、しばしば人々はこのお方をメシヤとして信頼するように導かれましたか（ヨハネによる福音書 6:2, 26, 30）。
- c. もしわたしたちが自分の信仰の基礎として奇跡に信頼するなら、どのような危険がありますか（マタイによる福音書 24:24; ヨハネの黙示録 16:13, 14; 13:11-14）。

「天の栄光と過去の迫害の繰り返しが入り混じるときに地上で生きている神の民の経験について、いくぶんかでも想像するのは不可能である。…サタンは邪悪な天使たちに囲まれて、自分が神であると主張しながら、可能であれば選民をも欺こうと、あらゆる種類の奇跡を働く。神の民は奇跡を働くことに自分たちの安全を見出すことはないであろう。なぜなら、サタンがこれからなされる奇跡を偽造するからである。」（同上 9 巻 16）

「多くの者は、愛する肉親や友人の姿をしてもっとも危険な異端の説を唱える悪霊たちに直面するであろう。これらの来訪者たちは、われわれの最も感じやすい同情に訴え、自分の主張を支持するために奇跡を行なう。われわれは、死んだ者は何事をも知らない、このように現われる者は悪鬼の霊である、という聖書の真理によって彼らに抵抗する用意がなければならない。」（各時代の争闘下巻 315）

「ここに預言されているのは単なる詐欺ではない。サタンの代理者たちが人の目をごまかして行なうようなことによってではなく、実際に彼らが行なう力をもっているその奇跡によって、人々は欺かれるのである。」（同上 307）

3. カルバリー

- a. どのような信仰の危機が最終的にはイエスの十字架に導きますか（ヨハネによる福音書 6:51-53; マタイによる福音書 27:22）。

「パリサイ人の偏見には、彼らの質問に表現されているよりも根深いものがあつた。それは、彼らの邪悪な心に根をおろしていた。イエスの一つ一つのことばと行為は、彼らの心のうちに敵対意識をひき起した。それは彼らのいだいている精神が、イエスのうちに共感を呼び起さなかったからである。」（各時代の希望中巻 134）

「不信なユダヤ人は、救い主のみことばのうちにある字義的な意味よりほかには何もわかつてしなかつた。儀式の律法の中には、血を飲むことが禁じられているので、彼らは…キリストのみことばを神聖をけがすことばとして解釈し、互にそのことについて議論した。弟子たちの中にさえ、『これは、ひどい言葉だ。だれがそんなことを聞いておられようか』という者が多かつた（ヨハネ 6:60）。」（同上 139）

- b. イエスはどの目的のために死を選ばれましたか（ヘブル人への手紙 9:22; ヨハネの黙示録 7:14）。

「わたしたちが洗うための備えがなされている。泉は無限の犠牲を払って用意されており、洗う責任はわたしたちに、すなわち神のみ前に不完全な者にかかっている。主はわたしたちが自分の側で何もせずに汚れたしみを取り除こうと申し出ておられるのではない。わたしたちは小羊の血で自分たちの衣を洗わなければならない。わたしたちは信仰によってキリストの血の功績をつかむことができ、このお方の恵みと力を通して、自分の誤り、自分の罪、自分の品性の不完全さを克服するための力を得ることができる。そして小羊の血でわたしたちの衣を洗い、勝利することができるのである。」（教会への証 3 巻 183）

- c. キリストの死によって、人々はこのお方を救い主として信頼するように導かれませんか（ルカによる福音書 24:2, 3, 21）。

「困難に困難が加わりつつあるように思えた。週の六日めに、彼らは主が死なれるのを見た。翌週の第一日に、彼らは主のおからだがなくなったことを知り、民衆をあざむくためにそれを盗み去ったのだという罪をきせられた。彼らを不利な立場におとし入れつつあるいつわりの印象をたえず打ち消すのに彼らは絶望した。」（各時代の希望下巻 328）

「キリストがなくなられてのち、弟子たちはほとんど失望に打ちひしがれていた。彼らの主は拒絶され、有罪とされ、十字架につけられた。祭司や役人たちは嘲弄して言った、『他人を救ったが、自分自身を救うことができない。あれがイスラエルの王なのだ。いま十字架からおりてみよ。そうしたら信じよう』（マタイ 27:42）。弟子たちの希望の太陽は沈んだ。そして夜が彼らの心につたれこめた。彼らは幾度もつぶやいた、『わたしたちは、イスラエルを救うのはこの人であろうと、望みをかけていました』（ルカ 24:21)。（患難から栄光へ上巻 18）

4. 復活

- a. 信じる者にとってイエスはどのような種類の基礎ですか（マタイによる福音書 16:18; エペソ人への手紙 2:19, 20; ペテロの第一の手紙 2:5, 6）。
- b. わたしたちの信仰にとって生ける救い主は、どれほど重要ですか（コリント人への第一の手紙 15:12-20）。
- c. キリストの死は和解をもたらします。このお方の復活は何をもたらしますか（ローマ人への手紙 5:8-10; ヨハネによる福音書 11:25, 26）。

「ワルド派の人々は、これらの飢えた魂に生命のパンを与え、神の約束のなかにある平和のメッセージを示し、救いの唯一の望みとしてキリストをさし示したいと切望した。善行によって、神の律法を犯した罪を贖うことができるという教義は、虚偽に基づくものであると彼らは主張した。人間の功績に頼ることは、キリストの無限の愛を見ることを妨げてしまう。墮落した人類は神の前に、何一つとして自分を推奨しうるものがないために、イエスが人間の犠牲としてなくなられたのである。十字架に架けられ、復活された救い主の功績が、キリスト者の信仰の基礎である。人がキリストによりすがり、キリストにつながるということは、手足が体につながり、枝が幹につながるのと同様に、現実で密接なものでなければならない。」（各時代の太争闘上巻 75）

「ヨセフの開かれた墓のほとりで、キリストは勝利のうちに、『わたしはよみがえりであり、命である』と宣言された（ヨハネ 11:25）。このことばを言うことができるのは神のみである。すべての被造物は神のみこころと力によって生きている。彼らは神に依存してその生命を受ける。最高のセラフから最もいやしい生物にいたるまで、すべてのものは生命のみなもとである神から力を補充されるのである。神と一つであられるおただけが、わたしはいのちを捨てる力があり、またそれを受ける力があると言うことがおできになった。キリストはその神性のうちに 死のなわめをたちきる力を持っておられた。」（各時代の希望下巻 316）

「キリストの神性は、永遠の生命についての信者の確信である。『わたしを信じる者は、またたとい死んでも生きる。また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。あなたはこれを信じるか』とイエスは言われた（ヨハネ 11:25, 26）。キリストはここでご自分の再臨の時を予期しておられる。その時、死せる義人は朽ちない者としてよみがえり、生ける義人は死を見ないで天へ移されるのである。キリストがラザロを死人の中からよみがえらせることによって行おうとしておられた奇跡は、死せるすべての義人のよみがえりを代表するのであった。キリストはみことばとみわざによって、ご自分がよみがえりの創始者であることを宣言された。まもなくご自分が十字架上に死のうとしておられたキリストは、よみの征服者として死の鍵をもって立ち、永遠の生命を与える権利と権力を主張された。」（同上中巻 346）

「キリストはご自分の人性によって人類に接し、ご自分の神性によって神のみ座をとらえておられた。人の子としてイエスは服従の模範をわれわれに示された。神のみ子としてイエスは服従する力をわれわれに与えてくださる。」（同上上巻 9, 10）

5. 天の奉仕

- a. 生ける救い主への信仰は、わたしたちを何に導きますか（ローマ人への手紙 5:11; ヘブル人への手紙 8:1, 2, 6, 9-11; ペテロの第一の手紙 1:3, 4）。

「弟子たちがエルサレムへ帰ると、人々は驚いて彼らを見た。キリストの裁判と十字架のあと、彼らは、落胆し恥じているだろうと思われていた。反対者たちは彼らの顔に悲しみと敗北の表情が見られるものと予期していた。ところが 予想に反して、よろこびと勝利だけがみられた。彼らの顔はこの世のものではない幸福に輝いていた。彼らは望みが裏切られたことを嘆かないで、神への賛美と感謝に満たされていた。彼らは大よろこびで、キリストの復活と昇天についてのすばらしい話を語ったが、そのあかしは多くの人々に信じられた。

弟子たちは将来についてもはやなんの不安もなかった。イエスが天におられ、イエスの思いはいまも彼らと共にあることがわかっていた。彼らは神のみ座に友なるイエスがおられることを知り、イエスのみ名によって熱心に天父に願いをささげた。」（同上下巻 383, 384）

- b. 罪の記憶から良心をきよめるために、わたしたちは何をすべきでしょうか（マタイによる福音書 21:42, 44; ヘブル人への手紙 10:16, 19, 20）。

「あなたが罪を犯したなら、すぐに恵みの御座に逃れて、それをすべてイエスに告げるべきである。あなたは罪に対する悲しみで満たされるべきである。なぜなら、あなたは罪によって自分自身の霊性を弱め、天の天使たちを悲しませ、あなたの贖い主の愛情深い心を痛み、傷つけたからである。あなたが魂の悔い改めのうちにイエスに許しを求めたとき、このお方はあなたを許されたと信じなさい。このお方の神聖な憐れみを疑ったり、このお方の無限の愛の慰めを拒んだりしてはならない。」（セレクトドメッセージ 3 巻 196）

- c. なぜわたしたちは、自分たちの生ける救い主にまず人として地上で生きていただく必要があったのですか（ヘブル人への手紙 2:17, 18; 4:14-16; ローマ人への手紙 8:34）。

個人的な復習問題

1. なぜ馬ぶねでのキリストの誕生は、人類救を救うのに不十分なのですか。
2. なぜキリストの奇跡は、救いのために不十分なのですか。
3. キリストの死は、わたしたちが神と和解するためにどれほど重要でしょうか。
4. なぜ復活は、救いにとって鍵となるのですか。
5. 生ける救い主は、信者にどこを指し示すのでしょうか。

罪人のための希望

暗唱聖句：「わたしこそ、わたし自身のためにあなたのとがを消す者である。わたしは、あなたの罪を心にとめない。」（イザヤ書 43:25）

「人間の意志が、神の意志と協力すると、どんなことでもできるようになる。神がお命じになったことは、神の力によって完成することができる。神のお命じになることはどんなことでも、成しとげることができるのである。」（キリストの実物教訓 307）

推奨文献： 各時代の大争闘下巻 210-226

日曜日

7月16日

1. 裁き

- a. わたしたちが人生で行う選択は、最終的な結果にどのような影響を与えますか（伝道の書 11:9）。
- b. 公然となされた悪事だけが裁かれますか。また、例外はありますか（伝道の書 12:13, 14; ローマ人への手紙 14:12）。

「神の律法はわたしたちが行ったことだけでなく、わたしたちが行わなかったことも有罪を宣告する。わたしたちは最後の決算の日に犯した罪だけでなく、怠惰の罪も記録されているのを見出すであろう。神はあらゆる働きとあらゆる隠れた事柄をも共に裁かれる。あなた自身の品性の測りによるだけでは、あなたが明確な悪を行っていないと証明するには不十分である。確かな善を何も行っていないという事実だけで、その人を邪悪で怠惰な僕として有罪を宣告するのに十分である。」（E・G・ウ・1888 年原稿 374）

「すべての人の行為は、神の前で調査され、忠実であったか不忠実であったかが記録されている。天の書物の中の各自の名の向かい側には、恐るべき正確さで、すべての悪い言葉、利己的な行為、義務の怠慢、隠れた罪、巧妙な偽善行為などが記入されている。天からの警告や譴責をなおざりにしたこと、時間を浪費し、機会を活用しなかったこと、善きにつけ悪しきにつけ、及ぼした感化とその広範囲にわたる結果などがみな、記録天使によって記録されている。」（各時代の大争闘下巻 213）

2. 24人の長老たち

- a. 個々人のある行動が、他よりも先に裁かれますか。あるいは、それらすべてが同時に裁かれますか（テモテへの第一の手紙 5:24; ペテロの第一の手紙 4:17）。

「象徴的儀式においては、告白と悔い改めによって神の前に出て、その罪が罪祭の血によって聖所に移された者だけが、贖罪の日の儀式にあずかることができた。そのように、最終的な贖罪と調査審判の大いなる日に、審査されるのは、神の民と称する人々だけである。悪人の審判は、これとは全く別の働きで、もっとあとで行なわれる。」（各時代の大きな争闘下巻 211）

- b. だれが天でキリストの仲保の働きを助けていますか。彼らはどこから来ましたか（ヨハネの黙示録 4:4; 5:8, 9; エペソ人への手紙 4:8; マタイによる福音書 27:52, 53）。

「キリストは、よみがえられたとき、多くのとりこをよみからおつれになった。キリストがなくなれるときの地震で墓が口を開き、キリストがよみがえられると、彼らはキリストといっしょに出てきた。彼らは神と共に働いた者、生命を犠牲にして真理のためにあかしをたてた者たちであった。いま彼らは、彼らを死人の中からよみがえらせてくださったキリストの証人となるのであった。

キリストは、その公生涯の間に、死人をいのちによみがえらせられた。彼はナインのやもめの子と、会堂司の娘とラザロをよみがえらせられた。しかし、彼らは不死を着せられなかった。彼らはよみがえってからも、やはり死ぬべきからだであった。しかし、キリストの復活のときによみから出て来た者たちは永遠の生命によみがえったのであった。彼らは、死とよみに対するキリストの勝利を記念する者として、キリストと共に昇天した。この人たちはもはやサタンのとりこではない、わたしが彼らをあがなったのだとキリストは言われた。彼らがわたしのいるところに共にいて、決して死を見たり、悲しみを経験することがないように、わたしは彼らをわたしの力の初穂として、よみからつれ出したのだ。」（各時代の希望下巻 317）

「よみがえらされた人々はキリストを個人的な救い主として信じるすべての人の復活の担保として宇宙に提示されるのであった。キリストを死者の中からよみがえらせたのと同じ力が、このお方の教会をよみがえらせる。そして、教会をキリストと共に、このお方の花嫁として、この世だけでなく、天の法廷、すなわち上なる世界においても、あらゆる支配者、あらゆる権力、名のある者の上にまさって栄光あるものとするのである。眠っている聖徒たちの勝利は復活の朝には輝かしいものとなるであろう。サタンの勝利は終わり、キリストが栄光と名誉のうちに勝利されるであろう。」（セレクトドメッセージ 1 巻 305, 306）

- c. これらの人々は、どこで、だれと共に、自分たちの働きについているでしょうか（ヨハネの黙示録 4:1-3, 8; 詩篇 11:4; ダニエル書 7:9-11）。

3. 必要とされている判決の種類

- a. わたしたちは何によって裁かれ、またどのように判断が下されるのでしょうか（ヤコブの手紙 2:12; コリント人への第二の手紙 5:10）。
- b. この種の裁判を通過するためには、どのような種類の品性が必要とされていますか（マタイによる福音書 5:48; ヨハネの黙示録 22:14）。

「神の律法への違反により、人は命の木に対する一切の権利を失った。キリストが死なれたのは、このお方の血の功績によって、神の律法への従順が人を天の祝福に値するものとし、命の木にあずかる権利を再び与えるためであった。」（霊的賜物 3 巻 88）

「わたしたちはいかにして救い主イエス・キリスト—わたしたちの偉大なる教師に明確に述べられた完全に到達できるだろうか。わたしたちは主のご要求に応じ、高い標準に到達できるだろうか。わたしたちはできる。さもなければキリストは、わたしたちにそうするようにお命じにならない。主がわたしたちの義であられる。主は人性をとって、わたしたちの前を歩まれ、わたしたちのために品性の完全さを達成してくださったのである。わたしたちは愛によって働き、魂を清める主を信じる信仰を持たなければならない。品性の完全は、キリストがわたしたちにとって何であるかということに基づいている。もしわたしたちが救い主のいさおしに絶えず依存して、み足のあとを歩くなら、わたしたちは主のように、清らかで汚れのない者になるのである。」（彼を知るために 130）

「ガラスの海の上を都の門に向かって進むわれわれを天使たちが、取り巻いていた。イエスは、力強い栄光のみ手をあげて、光り輝くちょうつがいをついた真珠の門を押し開き、『あなたがたは、わたしの血によって、あなたがたの衣を洗い、わたしの真理のために堅くたつた。中に入りなさい』とわれわれに言われた。われわれはみな進み入り、都に入る完全な権利が自分たちにあるのだと感じた。」（初代文集 66）

「わたしたちがキリストの義を着せられるとき、わたしたちは罪を楽しむことはなくなる。キリストがわたしたちに働いてくださっているからである。わたしたちは間違いを犯すかもしれない、しかし神の御子の苦しみを引き起こした罪を憎むようになる。戸は開かれており、最高の権力も最も低い者もそれを閉じることはできない。あなただけが自分の心の戸を閉じることができ、それによって主があなたに手を差し伸べることができないようにするのである。あなたは過去の一年半天からの光を受けてきた。それは主があなたに、自分の品性に持ち込み、またあなたの経験に織り込ませたいと望んでおられるものであった。」（エレン・G・ホワイト 1888 年原稿 545）

- c. 人の品性に関する主な問題は何ですか（ローマ人への手紙 3:23; ヨハネの第一の手紙 1:10）。

4. 罪人のための希望

- a. 罪人に希望があることを示す、どのような約束が与えられていますか（イザヤ書 43:25）。

「イエスは彼の聖なる神殿におられて、今、われわれの犠牲、われわれの祈り、われわれの過ちと罪の告白を受けいられる。そして、彼が聖所を去られる前に、イスラエルのすべての罪をゆるして、消し去られるのである。イエスが聖所を去られると、聖であって義なる者は、聖で義なるままである。なぜなら、そのとき彼らのすべての罪は消し去られて、生ける神の印を押されているからである。しかし、不義で汚れた者たちは、不義で汚れたままである。なぜならば、そのとき、彼らの犠牲、彼らの告白、彼らの祈りを、父なる神のみ座の前にささげる祭司がいないからである。それゆえに、来るべき怒りのあらしから人々を救うためになすべきことは、イエスが天の至聖所を去られる前にしなければならない。」（初代文集 114）

- b. 礼典律をキリストの働きと比較すると、どのように実際の清めが可能であるということがわかりますか（ヘブル人への手紙 10:1, 2; ヨハネの黙示録 19:8）。

「彼らの手にあるしゅろの葉は勝利の象徴であり、白い衣は、今は彼らのものとなっているキリストの汚れなき義を示している。」（各時代の斗争闘下巻 450）

「型としての奉仕において、大祭司は、イスラエルのために贖罪をなし終えると、外に出て来て、会衆を祝福した。そのように、キリストも、仲保者としての働きを終えられると、『罪を負うためではなしに…救いを与える』ために来られて、彼を待っている人々に永遠の生命をお与えになる（ヘブル 9:28）。祭司が聖所から罪を除去したときに、アザゼルの山羊の上にそれを告白したように、キリストは、罪の創始者であり煽動者であるサタンの上に、これらの罪をすべて置かれるのである。アザゼルの山羊は、イスラエルの罪を負って、『人里離れた地』に送られた（レビ記 16:22）。そのように、サタンは、自分が神の民に犯させたすべての罪を背負って、千年の間、この地上に監禁される。地上はその時、荒れ果てて住む者もない。そして彼は、ついに、すべての悪人を滅ぼす火の中で、罪の刑罰を余さず受ける。こうして、罪は最終的に除去され、進んで悪を捨て去った人々がすべて救われて、贖いの大計画は完成するのである。」（同上 218）

「わたしたち一人ひとりが、天の法廷における決定を待っている。わたしたち一人ひとりが、この世で行ったことに従って裁かれる。型の奉仕において、地上の至聖所で大祭司が贖罪のわざを行っていたとき、民は自分たちの罪があがなわれて除去されるために、それを告白し神の前に身を悩ますことを求められた。この贖罪の日の本体のときに、キリストが天の聖所において、その民のためにとりなしておられ、最終的な変更できない決定が宣告されようとしている時に、わたしたちに要求されるのは、それ以下であろうか。」（*セレクトド・メッセージ* 1 巻 162, 163）

5. 罪を忘れる

a. 罪が除去されるためには、何が起こる必要がありますか（使徒行伝 3:19）。

「真に罪を悔い改め、キリストの血が自分たちの贖いの犠牲であることを信じたものは、みな、天の書物の彼らの名のところに、罪の許しが書き込まれる。彼らは、キリストの義にあずかる者となり、彼らの品性は、神の律法にかなったものとなったので、彼らの罪は、ぬぐい去られ、彼ら自身は、永遠の生命にあずかるにふさわしいものとされるのである。」（各時代の大争闘下巻 215, 216）

「各人の判決は生か死かのいずれかにきまっていた。イエスが聖所で奉仕しておられた間に、審判は死せる義人から次に生ける義人へとつづけられていたのである。キリストは、ご自身の民のために贖いをなして彼らの罪を消し去り、み国を受けておられた。み国の民はもうできあがっていた。小羊なるキリストの婚姻は終わった。『国と…全天下の国々の権威とは』みなイエスと救いを継ぐ者にと与えられ、イエスは王の王、主の主として治められることになった。」（初代文集 452）

「もしヤコブが、欺瞞によって長子の特権を得た罪をあらかじめ悔い改めていなかったならば、神は、彼の祈りを聞き、あわれみ深く彼の生命を保つことを、なさらなかったであろう。そのように、悩みの時においても、神の民は、恐怖と苦悩にさいなまれているとき、まだ告白していない罪を思い出すならば、彼らは圧倒されてしまうことであろう。絶望が彼らの信仰を断ち切り、彼らは神に救いを求める確信が持てなくなることであろう。しかし、彼らは、自分たちが無価値なことを深く感じてはいるが、告白すべき罪を隠してはいない。彼らの罪は、前もってさばかれて、消し去られている。彼らは、罪を思い出すことができない。」（各時代の大争闘下巻 393）

b. 許しと、除去もしくは忘れることが同じではないということを示すために、イエスはどの譬をお用いになりましたか（マタイによる福音書 18:23-35）。

個人的な復習問題

1. 再臨前の審判では、だれが、また何が裁かれるのでしょうか。
2. 24人の長老は何にたずさわっていますか。また彼らは何によって準備しましたか。
3. どのような種類の宣告が必要とされていますか。またなぜ品性がそれほど重要なのか。
4. 罪人として、わたしたちの唯一の希望は何ですか。またどのようにそれを達成することができますか。
5. どの譬が、許しと罪の除去の違いを明示していますか。

罪の除去

暗唱聖句：「今や、義の冠がわたしを待っているばかりである。かの日には、公平な審判者である主が、それを授けて下さるであろう。わたしばかりではなく、主の出現を心から待ち望んでいたすべての人にも授けて下さるであろう。」（テモテへの第二の手紙 4:8）

「天の聖所における、人類のためのキリストのとりなしは、キリストの十字架上の死と同様に、救いの計画にとって欠くことのできないものである。」（各時代の大争闘下巻 222）

推奨文献： 各時代の争闘下巻 138-150

日曜日

7月23日

1. 罪の除去の時

a. 使徒の時代との関連において、罪の除去はいつ行われるのでしょうか（使徒行伝 3:19, 20）。

「調査審判と罪をぬぐい去る働きは、主の再臨の前に完了しなければならない。死者は、書物に記録されたことによって裁かれるのであるから、彼らが調査されるその審判が終わるまでは、彼らの罪はぬぐい去られることはできない。」（各時代の争闘下巻 218）

b. わたしたちの罪が天の書物から除去されている間に、再臨に備えて地上では何が起きているのでしょうか（エペソ人への手紙 5:25-27；ヨハネの第一の手紙 3:2, 3）。

「天の聖所におけるキリストのとりなしがやむとき地上に住んでいる人々は、聖なる神の前で、仲保者なしに立たなければならない。彼らの着物は汚れがなく、彼らの品性は、血をそそがれて罪から清まっていなければならない。キリストの恵みと、彼ら自身の熱心な努力とによって、彼らは悪との戦いの勝利者とならなければならない。天で調査審判が行なわれ、悔い改めた罪人の罪が聖所から除かれているその間に、地上の神の民の間では、清めの特別な働き、すなわち罪の除去が行なわれなければならない。」（同上 140, 141）

2. 調査審判

a. ダニエルは審判の光景をどのように述べていますか(ダニエル書 7:9, 10)。

〔ダニエル書 7:9, 10 引用〕こうして、人々の品性と生活が、全地の裁判官であられる神の前で調査され、各人が『そのしわざに応じ』て報いられる重大で厳粛な日が、預言者の幻に示された。日の老いたる者とは、父なる神のことである。……万物の根源であり、すべての律法の源であられるおかたが、審判をつかさどられる。そして、『万の幾万倍、千の幾千倍』の聖天使たちが、仕える者、また証人として、この大法廷に列席するのである。」(各時代の斗争闘下巻 210, 211)

b. この審判にだれが参加しますか(ダニエル書 7:13, 14; ヘブル人への手紙 9:24)。

「ここに描かれているキリストの来臨は、キリストが地上に再臨されることではない。キリストは、天において日の老いたる者のもとに来られるのであって、それは、彼の仲保者としての働きが終わるときに与えられる『主権と光栄と国』とをお受けになるためである。2300 日の終わりである 1844 年に起こると預言されたのは、この来臨のことであって、キリストが地上に再臨されることはなかった。われわれの大祭司は、天使たちを従えて、至聖所に入り、神のみ前で、人類のための彼の最後の務めをなさる。それは、調査審判の働きであり、贖罪の恵みにあずかる資格があることを示したすべての人のために贖いをなさることである。」(同上 211)

「〔死んだ義人〕の記録が調査され、運命が決定されるときに、彼ら自身はその法廷にはいないのである。

イエスは彼らの助け主として、神の前で、彼らのためにとりなしをなさる。」(同上 214)

c. このキリストの来臨は、この地上ではなく、天のどこかであることが、どのようにわかりますか(詩篇 11:4)。

「至聖所から教えの壮大な働きが続いている。神の天使たちは人々に通信している。キリストは聖所で職務を果たしておられる。わたしたちは本来あるべきほど、このお方に従って聖所の中に入っていない。キリストと天使たちが人の子らの心に働かれるのである。天の教会は地の教会と一つになって地上での良き戦いを戦っている。天におけるキリストの天の聖所の清めに調和して、この地上で魂の清めの働きが行われなければならない。そこではわたしたちが見られているようにもっとはっきりと見るであろう。わたしたちが知られているように知るようになるであろう。」(エリ・G・セイトン 1888 年原稿 27)

3. キリストが来られる前に

- a. キリストのご自分の王国との結婚は、このお方が地上に戻られる前に、あるいは後に行われるのでしょうか。教会を表すのにどのような象徴が用いられていますか（ヨハネの黙示録 21:2; ルカによる福音書 12:35, 36; ヨハネの黙示録 19:9）。

「ここで示されている、花婿の到着は、婚宴の前に起こる。婚宴は、キリストがみ国をお受けになることを意味している。み国の首都でありその代表である聖なる都、新エルサレムは、『小羊の妻なる花嫁』と呼ばれている。天使は、ヨハネに言った。『さあ、きなさい。小羊の妻なる花嫁を見せよう。』『この御使は、わたしを御霊に感じたまま、……連れて行き、聖都エルサレムが……神のみもとを出て天から下って来るのを見せてくれた』とヨハネは言っている（黙示録 21:9, 10）。したがって、明らかに、花嫁は聖都を表わし、花婿を迎えに出るおとめたちは、教会の象徴である。黙示録によれば、神の民は、婚宴に招かれた客であると言われている（黙示録 19:9 参照）。もし彼らが客であれば、花嫁をも代表することはできない。キリストは、預言者ダニエルが言っているように、天の日の老いたる者から、『主権と栄光と国』とを賜わるのである。彼は、『夫のために着飾った花嫁のように用意をととのえ』たみ国の首都、新しいエルサレムをお受けになる（ダニエル書 7:14、黙示録 21:2）。み国を受けたのちに、彼はご自分の民を救うために、王の王、主の主として栄光のうちに来られる。そして彼らは、天国で『アブラハム、イサク、ヤコブと共に宴会の席に』つき、小羊の婚宴にあずかるのである（マタイ 8:11、ルカ 22:30 参照）。」（各時代の犬争闘下巻 142, 143）

- b. イエスは二度目にどの役割のうちに来られますか（ヨハネの黙示録 17:14; 19:16）。

「イエスは、偉大な勝利者としておいでになる。今度は、恥辱と苦悩の苦い杯を飲む『悲しみの人』ではなくて、天地の勝利者として、生きている者と死んだ者とをさばくためにこられる。『忠実で真実な者』『義によってさばき、また戦うかたである。』そして『天の軍勢が』彼に従う（黙示録 19:11, 14）。数えることができないほどの聖天使の群れが、天の聖歌を歌いながら付き従う。大空は、『万の幾万倍、千の幾千倍』もの、輝く天使たちで満たされたように見える。この光景は、人間のどんな筆によっても描くことができない。その輝かしさは、どんな人間の頭でも十分に想像することはできない。『その栄光は天をおおい、そのさんびは地に満ちた。その輝きは光のようである』（ハバクク書 3:3, 4）。生きている雲が、さらに近づくと、すべての目は、いのちの君をながめる。いまはその聖なる頭を傷つけるいばらの冠はなく、その聖なる額には栄光の冠がある。そのみ顔は、真昼の太陽よりもまぶしく輝く。『その着物にも、そのものにも、『王の王、主の主』という名がしるされていた』（黙示録 19:16）。」（同上 419）

4. 決定された報酬

- a. いつ聖徒たちの報酬が決定されますか、またそれが実際与えられるのはいつですか (ヨハネの黙示録 11:18; 22:12; テモテへの第二の手紙 4:7, 8)。

「こうして、王が婚宴の客を吟味したことは、審判のみわざをあらわしている。福音の婚宴に集まる客は神に仕えることを表明する者、その名がいのちの書に書かれている者である。しかしクリスチャンであると告白する者がすべてほんとうの弟子なのではない。最後の報酬が与えられる前に、だれが義人の嗣業にあずかるにふさわしいかが決定されなければならない。この決定はキリストが天の雲に乗って再臨なさる以前に行なわれなければならない。キリストがこられるときには、報いを携えてきて、『それぞれのしわざに応じて報い』られるからである (黙示録 22:12)。とすると、主の来臨の前にすべての人のわざがどんなものであるかがさばかれ、キリストの弟子の一人一人はその行為にしたがって報いが与えられるのである。」(キリストの実物教訓 289, 290)

- b. 人々は律法によって裁かれるため、審判に先立って何が明らかにされる必要がありますか (ヨハネの黙示録 11:19; 使徒行伝 17:30; ヤコブの手紙 4:17)。

「天使は言った『もし光が来て、その光がわきに置かれたり拒否されたりするならば、有罪が宣告され、神が眉をひそめられるであろう。しかし光が来る前であれば、そこに罪はない。彼らが拒否することのできる光がないからである』。」(教会への証 1 巻 116)

- c. 契約の箱の中は何ですか。また、わたしたちはどのように天の聖所について学ぶことができるのでしょうか ヘブル人への手紙 9:4; 8:5。

「わたしは、至聖所で箱を見た。それは上も横も純金でおおわれていた。箱の両側に美しいケルブが立っていて、箱の上にその翼を広げていた。彼らは互いに向き合い、下の方を見つめていた。天使たちの間に黄金の香炉があった。箱の上の方の天使たちが立っている所に、非常に明るい栄光が輝いていて、それは神がおられるみ座のように見えた。イエスは箱のそばに立っておられた。そして、聖徒たちの祈りが彼の所にのぼってくると、香炉の中の香が煙って、彼は香の煙とともに彼らの祈りを彼の父にささげられるのであった。箱の中には、マナの入った黄金のつぼと、芽が出たアロンの杖と、書物のようにたたまれた石の板とがあった。イエスはそれを開かれた。そしてわたしは、そこに神の指で書かれた十誡を見た。」(初代文集 91, 92)

5. 贖罪の日

- a. レビの制度における贖罪の日について述べなさい。またその中で罪の除去がどのように象徴されているかを説明しなさい（レビ記 16:29, 30; 23:27, 30）。

「天の聖所の実際の清めも、そこに記録されている罪を取り除くことによって、すなわち消し去ることによって、成し遂げられねばならない。しかし、これを完成するためには、だれが罪の悔い改めとキリストを信じる信仰によって、贖いの恵みを受ける資格があるかを決定するために、記録の書の調査がなされねばならない。したがって、聖所の清めには、調査の働き、すなわち審判の働きが含まれるのである。この働きは、キリストがご自分の民を贖うために来られる前に行なわれねばならない。なぜなら、彼が来られる時には、彼はすべての者に、それぞれの行為に応じて報いを与えられるからである（黙示録 22:12 参照）。」（各時代の斗争闘下巻 136, 137）

- b. この現実を知ることはわたしたちの日々の選択にどのような影響を及ぼしますか（コリント人への第二の手紙 6:2）。

「悪の道は、変えようと思えばいつでも変えられるし、あわれみの招きを軽くあしらっても、なおくり返しその招きを感じることができると考えて、良心の声をしづめている人々は、非常に危険な道を歩んでいる。彼らは、自分の力のすべてを大逆逆者サタンの側に置いておきながら、いよいよどうにもならなくなって危険に囲まれたときに、自分の指導者を変えればよいと考えている。しかし、これはそれほど容易にできることではない。罪にふけてきた生涯の体験、教育、訓練などが品性をすっかり形成しているのであるから、彼らはもはやイエスのみかたちを受け入れることができなくなっている。もし光が彼らの道を照らしていなかったならば、事情は異なっていたであろう。あわれみのみ手がのべられて、その申しいでを受け入れる機会が彼らに与えられるかもしれない。しかし、長い間拒まれ、侮られて来た光は、ついに取り去られてしまうのである。」（人類のあけぼの上巻 308）

個人的な復習問題

1. 罪の除去がイエスの再臨の前に起こらなければならないことを、どのように知ることができますか。
2. ダニエル 7 章にキリストが来られるとあるのは、この地上ではなく天の宮廷の至聖所であることを、どのように知ることができますか。
3. どのように結婚はキリストがご自分の教会と結婚なさるのではなく、御国を受けることを象徴しているかを説明しなさい。
4. どのように人は、裁きの前に至聖所があきらかにされる必要を示してはじめて公正に裁かれることができますか。
5. どの出来事が、旧約聖書において罪の除去を象徴していましたか。

第一安息日献金 世界総会教育支部のために

今こそかつてなかったほど、わたしたちの子供たちの教育に投資が必要とされています。これらの若い人たちはこの世の事物によってあらゆる方向から攻撃を受けています。彼らを敵のたくらみから守るのはますます難しくなっています。かつてはアクセスが制限されていたものが、今は文字通り「スマート」ホンや他の機器を通して、わたしたちの子供たちに付着しています。わたしたちは自分自身の子供が伝道のために準備が



できていないなら、どのように伝道の働きのためにふさわしくなれるでしょうか。

「真の教育とは伝道者を養成することであって、神のむすこ、娘はすべて伝道者となるように召された者である。わたしたちは神と人ともに奉仕するために召されている。そしてこの働きに適した者となることが、わたしたちの教育の真の目的でなければならない。」(ミストリー・オブ・ヒーリング 364)

ますます教育施設は教えの基礎から離れて、世俗やさらに悪いもののための洗脳センターになってきています。多くの憂慮している親は、通学がどれほど自分たちの子供たちに感化を及ぼしているかに気づいて、どのように自分の子供たちを神の誉れと栄光のために教育する助けとなる教材を得ることができるか探しながら、外に出て行っています。ですから、世界総会教育支部は、まさにこの目的を焦点に全カリキュラムを作り上げる工程に入っています。わたしたちの教育者やさまざまなユニオンやフィールド会議の貢献と提携して、幼稚教育—12 学年のカリキュラムの準備が着々と進んでいます。

同時に、このプロジェクトは手元にある合計金額よりも大きいものです。わたしたちは次の三つのことをなすために、惜しみない献金を必要としています。能力のある個人によって教材を準備するために、教材を翻訳するために、それらを貧しい国にいる人々でも入手できるようにするために。

皆さんの支援が、最高品質の教材を準備し、こうして生徒たちが教会学校や家庭学校でそれらを用いて、「この世の生涯と永遠にわたる神の奉仕のために役に立つ資質を得る」ようになります(両親、教師、生徒への勧告 495)。

わたしたちはこの事業が大きいことを理解しています。しかし、その価値があります。またわたしたちは皆さんの惜しみない支援があれば、数学から言語や社会科学まで教材を作り、それによってわたしたちのうちにいる最も若い者たちに全世界へ福音のメッセージを伝える知識を身につけさせることを知っています。

先だってお礼申し上げます。また神が捧げ物と捧げる人を祝福してくださいませように。
世界総会教育支部

影が投げかけられた天の奉仕

暗唱聖句：「神は唯一であり、神と人との間の仲保者もただひとりであって、それは人なるキリスト・イエスである。」（テモテへの第一の手紙 2:5）

「わたしたちのためのキリストの執り成しとは、わたしたちの身代わりとしてまた保証人として、ご自身を御父に捧げることに於いて、ご自分の神聖な功績を提示することである。なぜならこのお方はわたしたちの罪を贖うために高いところへ昇天なされたからである。」（信仰と行い 105）

推奨文献： 信仰と行い 105-108

日曜日

7月30日

1. 預言者を通してのメッセージ

- a. 神はどのようにご自分のみ旨を人類にあらわされますか。またどのメッセージが特に終りの時代のために用意されていますか（民数記 12:6; ダニエル書 8:1, 2）。

「ダニエル書を読みなさい。そこに描かれている王国の歴史を一つ一つ思い出しなさい。政治家、議会、強い軍隊に注目し、人間の誇りを卑しめ人間の栄光をちにふさせるために神がどのように働かれたかを見なさい。ただ神だけが偉大なお方として表されている。預言の幻の中に、一人の力強い支配者を投げ倒し、別の者をお立てになる神を見ることができる。神は、その永遠の王国を確立しようとしておられる宇宙の君主、日の老いたる者、生ける神、すべての知恵の源、現在の支配者、未来の啓示者として表されている。自らの魂を虚飾へと高める人間がいかに貧しく、もろく、短命で誤りやすく、有罪であるかを読み、理解しなさい。」（SDA パイブル・コメント [E.G. ホワット・コメント] 4 巻 1166）

「牧師と信徒とは、ダニエル書と黙示録の預言は、不可解な神秘であると言った。しかし、キリストは、ご自分の弟子たちの時代に起こるできごとに関する預言者ダニエルの言葉を示して、『（読者よ、悟れ）』と言われた（マタイ 24:15）。また、黙示録が神秘であって理解できないという主張は、この書の表題そのものと矛盾している。『イエス・キリストの黙示。この黙示は、神が、すぐにも起るべきことをその僕たちに示すためキリストに与え、……この預言の言葉を朗読する者と、これを見て、その中に書かれていることを守る者たちとは、さいわいである。時が近づいているからである』（黙示録 1:1-3）』（各時代の斗争闘下巻 31）

2. 雄羊と雄やぎ

- a. 雄羊は何を象徴していますか、そしてその預言はどのように成就しましたか（ダニエル書 8:3, 4, 20; エステル記 1:1）。

「それらの国々は、神の原則を退け、そのことによって自らの破滅を招いたが、一方また天来の支配的な目的がそれらの国々の動きを通して働いていたことが明らかにされた。…」

「活動の舞台に現われたすべての国々は、『警護者』にして『聖者』なる神の御目的を成就するかどうかを試みられるために、地上にその地位を占めることを許されたのである。預言は世界の大帝国バビロン、メド・ペルシャ、ギリシャ、ローマの興亡を描いている。これらのどの国も、弱小な諸国家と同じように、歴史をくりかえしている。どの国家も試験の期間を与えられていずれも失敗し、栄光は消え、権力は失われ、その地位は他の国家によって占められた。」（教育 209）

- b. この大きい雄やぎは何を象徴していますか。またそれはどのように成就しましたか（ダニエル書 8:5-8, 21, 22）。

「アレキサンダーは自分自身の精神を治めるよりも王国を征服するほうがはるかにたやすいことを見出した。諸国家を征服した後、このいわゆる偉大な男は食欲の放縦を通して倒れ、不節制の犠牲者となった。」（クリスチャンの節制と聖書の衛生 29）

- c. 聖書は世界帝国の歴史を誤りなく正確に説明していますが、わたしたちはキリストのどのみ言葉を常に心にとめておくべきでしょうか（ヨハネによる福音書 18:36）。

「知ることによって同情心が生じ、同情心はまた効果的な奉仕の源泉となる。『かなたの国々』にある幾百万の悩める人々に対する同情心と犠牲の精神を青少年たちの中に喚起するためには、彼らにこれらの国々や民族について知らせるがよい。われわれの学校ではこうした方面の知識が大いに与えられなければならない。生徒たちは、歴史上のアレクサンダーやナポレオンのような人たちの遠征についてくわしく研究するよりも、使徒パウロやマルチン・ルターやモファットやリビングストンやケアリのような人物の一生や、現在日々明らかにされている伝道の働きに歴史について学ぶべきである。生徒たちの人生に何の関係もなく、一旦教室の外に出れば思い出しもしないような名前や理論を並べたてて、彼らの記憶につめこむよりは、あらゆる土地を伝道の働きに照らして研究させ、その土地の住民や彼らの必要を知るようにするほうがよい。」（教育 318）

3. 力強い小さい角

- a. 力強い小さい角は何を象徴し、それはどのように成就しましたか（ダニエル書 8:9-12）。

「イスラエルからとり去られた王冠は、バビロン、メド・ペルシヤ、ギリシヤ、ローマの各王国につぎつぎに渡った。神は『わたしが与える権威をもつ者が来る時まで、その跡形さえも残らない』と仰せになっている。」（教育 212）

「アレキサンダーやシーザーは、自己を征服するよりも世界を征服するほうがはるかにたやすいことを知った。」（家庭の教育 86）

- b. 「大きな」「著しい」また「はなはだしく大きく」という言葉は、それぞれの王国の広大な比較を描写するために、どのように用いられていますか（ダニエル書 8:4, 8, 9）。天と星の衆群に立ち向かうとはどのような意味でしょうか（ダニエル書 8:10; 創世記 37:9-11）。

『右の手に七つの星を持つ者……が、次のように言われる』（黙示録 2:1）。この言葉は教会の教師たち、すなわち、神から重い責任を負わされている人々に語られている。教会に豊かになければならないすばらしい祝福は、キリストの愛を表すはずの神の牧師と切り離せない関係にある。天の星はキリストの支配下にある。キリストは星を光で満たされる。また、その運行を導き、指示される。もしキリストがこれをなさらなければ、それらは落星になるであろう。牧師たちもそれと同様である。彼らは主のみ手の中にある道具にすぎない。そして、彼らがなし遂げるすべてのよいことは、キリストの力を通してなされる。彼らを通してキリストの光が輝き出なければならない。救い主が彼らの能力とならなければならない。キリストがみ父をご覧になるように彼らがキリストを見るならば、彼らはキリストの働きをすることができるようになる。彼らが神を頼みの綱とするならば、神はこの世にあらわす輝きを彼らにお与えになるのである。」（患難から栄光へ下巻 291, 292）

「ヨハネはキリストのご生涯のうちに彼が目撃した素晴らしい出来事を思い出した。想像の中で彼はかつて恵まれた貴重な機会を再び味わい、大いに慰められたのである。突然彼の瞑想は妨げられ、はっきりとした明確な口調で呼びかけられた。彼はその声がどこからなのかを見ようとして振り返った。すると見よ、彼が愛した主が、彼と共に歩き、彼と語り、十字架の苦しみを目の当たりにしたその主を見た。しかし救い主のお姿はなんと変わっていたことであろう。このお方はもう『悲しみの人で、病を知って』おられるお方ではない（イザヤ 53:3）。このお方には屈辱の跡はなかった。このお方の目は燃える炎のようで、このお方の足は炉で精錬された光り輝くしんちゅうのようであった。このお方の声の調子は多くの水の音楽のような音であった。このお方の顔は強く照り輝く太陽のようであった。このお方の手には諸教会の牧師たちを表す七つの星があった。」（きよめられた生涯 77, 78）

4. 祭司として詐称する者

- a. 衆群の主とはどなたですか。また小さい角はこのお方に対してどのように高ぶったのですか（ダニエル書 8:11, 25; ヨハネの黙示録 19:16; 17:14）。

「これらの象徴が用いられている一連の預言は、黙示録 12 章から、キリストを誕生の時に滅ぼそうとした龍から、始まっている。龍は、サタンであると言われている（黙示録 12:9）。救い主を殺すためにヘロデを動かしたのは、サタンであった。しかし、キリスト教時代の初期において、キリストと彼の民に戦いをいどんだサタンの主力は、ローマ帝国であり、そこにおいて最も有力な宗教は、異教であった。こうして、龍は、第一義的にはサタンを表わすが、第二義的には異教ローマの象徴である。」（各時代の大争闘下巻 157）

- b. キリストは十字架で贖いの最後の働きを完成なさらなかった（ローマ人への手紙 5:8-11）、イエスは天の聖所で贖罪としてどの働きを続けておられますか（ヘブル人への手紙 3:1; 8:1, 2; 9:8, 9, 21-26）。

「われわれの偉大な大祭司は門の外で苦しまれたときに、ご自身という犠牲の供え物を完成された。そのとき、民の罪のために完全な贖罪がなされた。イエスはわれわれの弁護士であり、大祭司であり、仲保者である。」（SDA バイブル・コメント [E.G. 初巻・コリント] 7 巻 913）

- c. 帝国ローマの滅亡の後、法王権はどのようにして天の聖所のとりなしの働きを自分自身の地上の制度に移しましたか（テサロニケ人への第二の手紙 2:3, 4; テモテへの第一の手紙 2:5）。

「今、人々によって捧げられる香、煉獄から魂を救うと言われているミサは、神にとって少しも役に立たない。人々が救いを得ようと望んで受け入れているすべての祭壇や犠牲、伝承、作り話などは当てにならないものである。外で捧げられる犠牲はあってはならない。なぜなら偉大な大祭司がご自分の働きを聖所で実行しておられるからである。…」

われわれの弁護士としての仲保の働きにおいて、キリストは人の徳や、人の仲保を必要とされない。キリストだけが罪を負う方であり、唯一の罪祭であられる。祈りと告白はこのお方だけに、すなわちすべての人のために一度だけ聖所に入られたお方にのみ捧げられるべきものである。…」

いわゆる聖徒たちのとりなしは、人間の発明し得る最大の虚偽である。司祭や支配者には、あたかも救い主の属性があるかのように、またとがや罪を許すことができるかのように、キリストと彼が救うために死なれた魂との間に立ち入る権利はない。彼らは彼ら自身が罪人である。」（同上）

5. 天の聖所がぎよめられる

- a. 天の聖所におけるキリストの日々の奉仕が隠され、傷つけられるようになることを、どのようにダニエルの預言はあらかじめ告げていますか（ダニエル書 8:11, 12）。
- b. この反逆—もともと天で神と等しくなろうとした同じ反逆の精神（イザヤ書 14:12-14）—は、どれくらいのあいだ続き、また天の聖所におけるキリストの贖罪の務めに影を投げかけることになりましたか（ダニエル書 8:13, 14）。

「天においてルシファーは権力と権威において第一番であることを望んだ。彼は神となり、天の統治権を持ちたかった。そしてこの目的のために彼は天使たちの多くを自分の側に引き入れた。彼が自分の反乱軍と共に神の宮廷から追い出されたとき、反乱と利己主義の働きは地上で続けられた。」（キリストを映して 51）

「救い主は弟子たちをまわりに集めて、彼らに言われた、『だれでも一ばん先になろうと思うならば、一ばんあとになり、みんなに仕える者とならねばならない』（マルコ 9:35）。……最高の地位を争うことは、天の世界に大争闘をひき起してキリストを死ぬために天からくだらせたその同じ精神の働きであった。……もしルシファーが、ほんとうにいと高き神のようになろうと望んだのだったら、彼は決して天における自分の定められた地位を捨てなかったであろう。なぜなら、いと高き神の精神は、無私の奉仕のうちにあらわされるからである。ルシファーは、神のご品性を望んだのではなくて、神の権力を望んだのであった。彼は自分のために最高の地位を求めたが、彼の精神に動かされる者はだれでもみなこれと同じことをするのである。こうして離反、不一致、争いは避けられないものとなる。支配権は最も強い者のほうびとなる。サタンの王国は暴力の王国であって、各人は互に相手を自分自身の昇進の道におけるじゃま物とみなすか、あるいは自分がもっと高い地位へのぼるための踏み石とみなすのである。」（各時代の希望中巻 211, 212）

- c. 2300 日の終わりを知るとき、わたしたちは何を理解するでしょうか（イザヤ書 43:25; ヨハネの黙示録 14:6, 7）。

個人的な復習問題

1. 神からのメッセージを持っている真の預言者を、どのように見分けることができますか。
2. 雄羊と雄やぎの意味を述べなさい。
3. この預言の中の「大きい」、「著しい」、「はなはだしく大きく」を分類しなさい。
4. どの地上の権力が、天の聖所でキリストの働きを奪おうとしましたか。
5. 2300 日の終わりに、何が起こることになっていましたか。

「そして天の聖所は清められる」

暗唱聖句：「彼は言った、『二千三百の夕と朝までである。そして聖所は清められてその正しい状態に復する』」（ダニエル書 8:14 欽定訳）

「人の子の苦しみと死を通して、人の救いは可能にされた。聖なる御霊という代理を通して、神はご自分のかたちが人類のうちに回復するように計画しておられる。こうして新しく生きた生活の原則が罪によって汚されていた思いのうちに持ち込まれるようになる。…キリストの十字架が研究されなければならない。それが注目を集め、愛情をつかむべきである。罪のために流された血潮はあらゆる種類の利己心から、思いと心を純潔にし、清めるのである。」（牧師への証 377, 378）

推奨文献： 国と指導者下巻 279-304

日曜日

8月6日

1. 断食を伴う祈りのうちに

- a. 高く尊ばれた神の預言者ダニエルが、どのように自分が他の預言者の書物を研究する必要性を超越しているとは考えていなかったかを示しなさい（ダニエル書 9:2; エレミヤ書 29:10）。

「ダニエルはイスラエルのためになお心を悩まし、改めてエレミヤの預言を研究した。」（国と指導者下巻 163）

- b. 神に任命された使命者たちの書物を理解するために、わたしたちは喜んで何をすべきでしょうか（ダニエル書 8:27; 9:3; 10:1-3）。

「この試練は、真の信仰をもって、み言葉と神の霊の教えであると信じている事柄に従っていた人々の、その強さを明らかにするのであった。聖書を聖書自身の注解者とせず、人間の説や解釈を信じることの危険が、この経験によって、初めて教えられるのであった。信仰の子供たちにとって、彼らの誤りからくる困惑と悲嘆は、必要な矯正を行なうのであった。彼らは、預言の言葉の、いっそう厳密な研究へと導かれるのであった。彼らは、自分たちの信仰の基礎をもっと注意深く調べ、一般に広くキリスト教界において受け入れられたものであっても、真理の聖書に基礎をおかないものは、みな拒否するように教えられるのであった。」（各時代の
大争闘下巻 48）

2. 2300 日

- a. 以前にダニエルに与えられ、彼が理解していなかった幻の説明に関して、ダニエルを啓発するために、天使ガブリエルが来たことを、何が示していましたか（ダニエル書 9:20-23, 26, 27）。

「もう一つの幻によって、将来の出来事についてさらに光が与えられた。そしてこの幻の最後のところで、ダニエルはひとりの聖者の語っているのを聞いた。またひとりの聖者があって、その語っている聖者にむかって『幻にあらわれたことは、いつまでだろう』と言うのを聞いた（ダニエル 8:13）。『二千三百の夕と朝までである。そして聖所は清められてその正しい状態に復する』という解答の言葉が、彼の心を大いに悩ました（同 8:14 欽定訳）。彼は熱心に幻の意義を知ろうとした。彼はエレミヤが預言した七十年の捕囚の期間と、神の聖所が清められる前に経過すると、幻の中で天の聖者が宣言するのを聞いた二千三百年との間の関係を、理解することができなかった。天使ガブリエルはダニエルに部分的解き明かしを与えたが、彼は『これは多くの日の後にかかわる事だから』という言葉聞いたときに、気を失ってしまった。『われダニエルは疲れはてて、数日の間病みわずらったが、後起きた』と、ダニエルは自分の経験を記している（同 8:26, 27）。」（国と指導者下巻 162, 163）

「ダニエルのところへ神からのみことばをもってきたのは、神のみ子に次ぐ位にある天使ガブリエルであった。」（各時代の希望上巻 288）

- b. 以前に預言者に与えられていた、どの命令がまだ完了していませんでしたか。また、終わっていない説明は何に関することでしたか（ダニエル書 8:16, 14）。

「天使は、ダニエルが八章の幻のなかで理解しなかった点、すなわち、『二千三百の夕と朝までである。そして聖所は清められてその正しい状態に復する』という、時に関する言葉を説明するという目的のために、特につかわされたのであった。」（各時代の大争闘下巻 12, 13）

「民として、わたしたちは預言の研究を熱心にすべきである。ダニエルとヨハネの幻の中で明らかにされている聖所の主題に関して知的になるまでわたしたちは休むべきではない。この主題はわたしたちの現在の立場と働きに大きな光を当て、そして神が過去の経験においてわたしたちを導いてくださったという間違いのようなない証拠をわたしたちに与えている。それは 1844 年のわたしたちの失望を説明し、清められるべき聖所はわたしたちが思っていたような地球ではなく、キリストはそのとき天の聖所の至聖所にお入りになったことをわたしたちに示した。そしてそこでこのお方は預言者ダニエルに天使が言った『2300 日の夕と朝までである。そして聖所は清められてその正しい状態に復する』という言葉の成就として祭司職の最後の働きを執り行っておられる。」（伝道 222, 223）

3. 一日を一年という原則

- a. 預言的な一日をどのように理解すべきですか（エゼキエル書 4:6; 民数記 14:33, 34）。

「預言では、一日は一年をあらわしている(民数記 14:34、エゼキエル書 4:6 参照)。」
(国と指導者下巻 299)

- b. 上記の質問で与えられた理由の他に、ダニエル 9 章の 70 週がダニエル 8 章の 2300 日の一部であるということが、どのようにわかりますか。そしてこの期間中に何が成し遂げられることになっていましたか（ダニエル書 9:24-27）。

「ダニエルに『このみ言葉を考えて、この幻を悟りなさい』と命じたあとで、天使が最初に語った言葉は、『あなたの民と、あなたの聖なる町については、70 週が定められています』ということであつた。ここで『定められています』と訳された言葉は、字義的には、『切り取る』という意味である。70 週、すなわち 490 年は、特にユダヤ人のために切り取られていると天使は宣言した。しかし、それは、何から切り取られたのであろうか。2300 日がダニエル書 8 章において述べられている唯一の期間であるから、70 週が切り取られたのは、それからに違いない。したがって 70 週は、2300 日の一部であり、この二つの期間は、同時に始まるものでなければならない。70 週は、エルサレムを建て直せという命令が出た時から始まると、天使は言明した。この命令の年代を発見することができるなら、2300 日という長い期間の起算点も確かめることができる。」(各時代の犬争闘下巻 13)

「救いの計画は、永遠の昔から無限の神の会議の中に場所を占めていた。福音は人への神の愛の啓示であり、人類の幸せと安寧に不可欠なもののすべてを意味する。地上での神の働きは計り知れない重要性を持っており、そしてサタンの特別な目的は、それを人の視野と思いから閉め出してしまうことである。こうしてキリストがそのために死なれた人々を滅ぼすためにその巧妙な手段を効果的に実行できるためである。人の発見が神の知恵よりも高められるようにするのが、彼の目的である。心が人間の思想や理論で夢中になり神の知恵が排除されるとき、そこに偶像礼拝の刻印が押される。誤って科学と呼ばれているものが、神よりも高められ、自然がその造り主よりも高められている。神はそのような知恵をどのようにご覧になるだろうか。」(クリスチャン教育の基礎 186)

4. 条件の説明

- a. 「罪を終わらせる」、あるいは原文の意味するところの「罪祭」という言葉は、どのように成就しましたか（ヘブル人への手紙 9:24-26; 7:26, 27）。

「さらに天使は『彼は一週の間（7年間）多くの者と堅く契約を結ぶでしょう』と言った。救い主が伝道をお始めになってから7年間は、特にユダヤ人に福音が伝えられることになっていた。3年半はキリストご自身の宣教であった。そしてその後は、使徒たちによるものであった。『そして彼はその週の半ばに、犠牲と供え物を廃するでしょう』（ダニエル書 9:27）。真の犠牲であられるキリストは、紀元 31 年の春、カルバリーでささげられたのである。その時、神殿の幕が二つに裂けて、犠牲制度の神聖さとその意義が失われてしまったことを示したのである。」（国と指導者下巻 300, 301）

「カルバリーにおいてささげられた大いなる犠牲によって、四千年の間神の小羊を指し示してきた犠牲制度は終わった。型は実体と出会い、儀式的な制度のあらゆる犠牲と供え物は、そこで終わるのであった。」（各時代の斗争闘下 15）

- b. どのように、悪のために和解がなされましたか（コリント人への第二の手紙 5:19, 20）。

「イエスは世を贖うために無限の値を払われ、人類はこのお方の手に与えられた。彼らはこのお方の所有となった。このお方はご自分の榮譽、富、ご自分の天の宮廷の栄光に満ちた家を犠牲にしてヨセフとマリヤの息子となられた。ヨセフは最も貧しい日雇いの労働者の一人であった。イエスも働かれた。このお方は苦難と苦勞の生涯を送られた。このお方がバプテスマ後に宣教をお始めになったとき、このお方は約 6 週間にもわたる苦しい断食に耐えられた。このお方の苦しみを言葉では表せないほどに厳しいものにしたのは、ただ激しい飢えの苦しみだけではなく、世の罪の罪深さがこのお方の上に重くのしかかっていたからであった。罪を知らないお方がわたしたちのために罪とされた。わたしたちの罪のゆえにこの恐るべき罪の重さを背負われ、このお方は食欲、世への愛着と榮譽への愛着、そして傲慢へと導く誇りに関する恐ろしいテストに耐えられたのであった。キリストはこれらの 3 つの主要な誘惑に耐え、人のために打ち勝ち、義なる品性を形成された。なぜなら、このお方は人が自分ではできないことを知っておられたからである。このお方はこれらの 3 つの点において、サタンが人類を攻撃するであろうことをご存知であった。彼はアダムを打ち負かしていた。そして、彼は人類の破滅を完成するまで自分の働きを進めようと計画していた。キリストは人が自分の力では打ち勝つことができないことをご覧になって、人に代わってサタンを征服するために戦場に入ってくださいました。キリストは、苦難、自己否定、自己犠牲の生涯によって、またご自身の屈辱と最終的な死によって、人の贖い代のために道を備えてくださったのである。このお方が人に助けをもたらされたのは、人がキリストの模範に従い、キリストが彼のために勝利されたように、自分自身のために勝利できるためであった。」（教会への証 3 巻 372）

5. 天の務めが始まった

a. 永遠の義はどのようにして保証されましたか (ナホム書 1:9)。

「全宇宙は、罪の性質とその結果について証人となるであろう。罪を徹底的に根絶することは、世の初めだったら天使を恐れさせ、神の栄えを汚したであろうが、いまでは、神のみこころを行なうことを喜び、心のうちに神のおきてをもっている宇宙の全住民の前に、神の愛を立証し、そのみ栄えを確立するものとなる。もはや悪は再び現われてこない。『患難かさねて起こらじ』と聖書には言われている (ナホム書 1:9 文語訳)。サタンが束縛のくびき であると非難してきた神の律法は、自由の律法として尊ばれる。」(各時代の犬争闘下巻 242)

わたしたちが自分でなし得ることは、罪で汚れている。しかし神のみ子は『罪をとり除くために現れたのであって、彼にはなんらの罪がない』(ヨハネ第一 3:5, 4)。罪は『律法を犯すこと』であると定義されている(ヨハネ第一 3: 4 欽定訳)。だがキリストは、律法のあらゆる要求に従順であられた。主はご自分について、『わが神よ、わたしはみこころを行うことを喜びます。あなたのおきてはわたしの心のうちにあります』と言われた(詩篇 40:8)。主はまた、この地上におられたとき弟子たちに向かって、『わたし(は) わたしの父のいましめを守った』と言われた(ヨハネ 15:10)。キリストはその全き従順によって、あらゆる人間が神の戒めに従うことができるようになった。人が自分自身の心をキリストにささげるとき、心はキリストの心と結合し、意志はキリストの意志に没入し、精神はキリストの精神と一つになり、思いはキリストのうちにとらわれて、わたしたちはキリストのいのちを生きる。これがキリストの義の衣を着ることである。』(キリストの実物教訓 291, 292)

b. 地上の聖所でその務めが開始される前に幕屋は油を注がれなければなりませんでした(出エジプト記 40:9)。天の聖所でその務めを開始するために、70 週が終わる前に、イエスは何を経る必要がありましたか(ダニエル書 9:24; マタイによる福音書 3:13-17; ヨハネによる福音書 19:28-30; ヘブル人への手紙 8:1-5; 9:8, 9)。

個人的な復習問題

1. わたしたちの時代の重要な預言を理解するために、わたしたちはどのような自己否定を喜んで働かせるべきでしょうか。
2. ダニエル 9 章の預言が明確に、ダニエル 8 章、特別に 14 節の説明に関連していることが、どのようにわかりますか。
3. 預言を研究するとき、時の期間について、何を悟る必要がありますか。
4. 70 週という期間に成就すべきことをいくつか説明しなさい。
5. イエスがご自分の天での務めを開始することができる前に、何が起こらなければなりませんでしたか。

最終的な犠牲

暗唱聖句：「それゆえ、エルサレムを建て直せという命令が出てから、メシヤなるひとりの君が来るまで、七週と六十二週あることを知り、かつ悟りなさい。その間に、しかも不安な時代に、エルサレムは広場と街路とをもって、建て直されるでしょう。」（ダニエル書 9:25）

「キリストの血は、悔い改めた罪人を律法の宣告から解放したが、しかし、それは罪を消し去るものではなかった。罪は最終的な贖罪の時まで聖所の記録に残るのである。そのように象徴においても、罪祭の血は悔い改めた者から罪を取り除いたが、罪は贖罪の日まで聖所に残った。」（人類のあけぼの上巻 422）

推奨文献： 国と指導者下巻 210-229

日曜日

8月13日

1. 預言の始まり
 - a. 70 週の預言全体はいつ始まりますか（ダニエル書 9:25）。
 - b. 預言の条件を満たしていない命令は他にどのようなものがありましたか（エズラ記 1:1-4; 6:1-12; ネヘミヤ記 2:1-8）。
 - c. 宗教と司法権、財政を含むユダヤの制度全体を回復するという条件を満たす唯一の命令はどれですか（エズラ記 7:11-26）。

「この命令は、エズラ記の 7 章にしるされている（12-26 参照）。それは紀元前 457 年に、ペルシャ王アルタシャスタによって、最も完全な形で発布された。しかしエズラ記六ノ一四には、エルサレムにある主の家が、『クロス、ダリヨスおよびペルシャ王アルタシャスタの命によって』建てられたと言われている。勅令を発し、確認し、完成したこれら 3 人の王によって、預言が 2300 年の起算点として要求していることが成し遂げられた。勅令が完全なものとされた紀元前 457 年を出発点として、70 週に関する預言はすべて成就されたことがわかった。」（各時代の大争闘 下巻 13, 14）

2. メシヤが現れた

- a. いつメシヤはご自身を現わし、第 70 週目が始まったことを示されましたか。そしてこの「時」が始まったとき、イエスは何歳でしたか（ヨハネによる福音書 1:29, 41; マタイによる福音書 3:16, 17; 使徒行伝 10:38; ルカによる福音書 3:23）。

『エルサレムを建て直せという命令が出てから、メシヤなるひとりの君が来るまで、七週と六十二週ある』—すなわち、69 週、つまり 483 年ある。……その時、この預言は成就した。『メシヤ』とは、『油を注がれた者』という意味である。キリストは、紀元 27 年の秋、ヨハネからバプテスマを受け、聖霊の油を注がれた。使徒ペテロは、『神はナザレのイエスに聖霊と力とを注がれました』とあかししている（使徒行伝 10:38）。……彼は、バプテスマの後、ガリラヤに行き、『神の福音を宣べ伝えて言われた、「時は満ちた」』（マルコ 1:14, 15）。」（各時代の争闘下巻 14）

- b. イエスはこの預言をご自身の務め（ダニエル 8 章と 9 章）と永遠の福音の重要な側面として、どのように明らかにされましたか（マルコによる福音書 1:14, 15; ヘブル人への手紙 4:15, 16）。

「〔弟子たち〕は、キリストご自身から、『時は満ちた、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ』とのメッセージを帯びてつかわれた（マルコ 1:15）。このメッセージは、ダニエル書 9 章の預言に基づいていた。」（同上 38）

「『時は満ちた、神の国は近づいた』というのが、彼らのメッセージであった。『時』—メシヤすなわち『油注がれた者』にまでおよぶ、ダニエル書 9 章の 69 週—の終了にあたって、キリストは、ヨルダン川でバプテスマのヨハネからバプテスマを受けられた後、聖霊の油をお受けになった。そして、彼らが『近づいた』と宣言した『神の国』は、キリストの死によって建設された。この王国は、彼らが信じるように教えられていた地上の帝国ではなかった。また、『国と主権と全天下の国々の権威とは、いと高き者の聖徒たる民に与えられる』ときに建設される、将来の不滅の王国、『諸国の者はみな彼らに仕え、かつ従う』永遠の王国でもなかった（ダニエル書 7:27）。聖書でよく用いられている『神の国』という表現は、恵みの王国と栄光の王国の両方を指すのに用いられている。…恵みのみ座は、恵みの王国を代表している。なぜならばみ座の存在することは、王国の存在を意味しているからである。キリストは、多くのたとえのなかで、人の心に働く神の恵みの活動を指すのに、『天国』という表現を用いられた。」（同上 39, 40）

3. 預言の成就

- a. イエスはご自身の働きの間を通じて、何に関心をもっておられましたか。またちょうど定められた時に何が起こりましたか（ヨハネによる福音書 7:6-8; 19:16-18, 28-30; 20:30, 31）。

「救い主の初臨と彼の生涯の働きにまつわる重要な諸事件が、天使ガブリエルによってダニエルに知らされた。『あなたの民と、あなたの聖なる町については、70 週が定められています。これはとがを終らせ、罪に終りを告げ、不義をあがない、永遠の義をもたらし、幻と預言者を封じ、いと聖なる者に油を注ぐためです』と天使は言った（ダニエル書 9:24）。」（国と指導者下巻 299）

「キリストは、預言されたとおりの時に、預言されたとおりの様子で、おいでになったのであった。聖書の証言は、彼の伝道の細かい点まで成就した。彼は、救いの使命をお伝えになった。そして、『その言葉に権威があった。』聴衆は、それが神からのものであることを証言した。み言葉も、聖霊も、み子が神の任命を受けていることをあかしした。」（各時代の斗争闘下巻 38）

- b. この預言は同じく 2300 日の残りが成就する正確な年を、どのように明らかにしていますか（ダニエル書 9:24）。

「キリストの死、すなわち、弟子たちの希望を最終的に打ち砕いたと思われた事件そのものが、それを永遠に確かなものとした。それは、彼らにとって悲痛な失望ではあったが、彼らの信仰が正しかったという証明のクライマックスであった。彼らを悲嘆と失望に陥れた事件は、アダムの子孫に希望の扉を開くものであり、あらゆる時代の、神のすべての忠実な民に、来世と永遠の幸福をもたらす中心事件であった。」（同上 41）

「ここまで、預言に指示されたことはみな、驚くばかりに成就した。そして 70 週が紀元前 457 年に始まり、紀元 34 年に終わることが、疑いの余地なく確定した。この年代から 2300 日の終わりを見いだすことは、むずかしいことではない。70 週、すなわち 490 日が 2300 から切り取られると、あとに 1810 日が残る。490 日が終わったあとで、1810 日もまた成就するはずであった。紀元 34 年から 1810 年たてば、1844 年になる。この大いなる預言の期間が終わったところで、『聖所は清められる』と神の天使はあかししたのである。こうして、聖所の清め—それはキリストの再臨の時に起こるものと、ほとんどすべての人が信じていた—の時が、はっきりと指示された。」（同上 15, 16）

4. 権利をもって入る

a. 聖都に入るには何が必要ですか (ヨハネの黙示録 21:27; 22:14)。

「十字架上のキリストの死は、死の力を持つ者、罪の創始者である者の滅びを確実なものとした。サタンが滅ぼされるとき、悪に誘う者はいなくなり、贖罪が繰り返される必要は二度となくなる。そして神の宇宙に再び反逆が起こる危険はなくなるのである。この闇の世界で唯一罪を効果的に抑制することのできるものだけが、天でも罪を防ぐ。キリストの死の重要性は聖徒たちと天使たちに理解される。墮落した人間は世の初めからほふられた小羊がなければ神のパラダイスに家を持つことができなかったのである。そうであれば、わたしたちはキリストの十字架を讃美しないであろうか。天使たちはキリストに誉と栄光を帰している。なぜなら彼らでさえ神の御子の苦しみに目を向けること以外に安全はないからである。天使たちが背教から守られているのは十字架の効力を通してである。十字架がなければ、サタンが墮落する前の天使たちと同じように彼らは悪に対して安全ではないであろう。天使の完全は天において失敗した。人の完全は幸福なパラダイス、エデンで失敗した。地でも天でも安全を願うすべての者は神の小羊を見なければならぬ。救いの計画は、神の正義と愛を明らかにすることによって、墮落していない世界にも、また小羊の血で贖われる者たちのあいだにおけるのと同様に、離反に対する永遠の安全を提供するのである。わたしたちの唯一の希望は彼にあって神に来る者を完全に救うことができるこのお方の血に完全に信頼することである。カルバリーの十字架でのキリストの死はこの世におけるわたしたちの唯一の希望であり、来るべき世においてもわたしたちのテーマとなるであろう。ああ、わたしたちは贖いの価値を完全に理解していない!もし理解しているならば、わたしたちはもっとそのことについて話すはずである。このお方の愛する御子のうちにある神の賜物は理解しがたい愛の表現であった。それは神がご自分の律法の誉を保ちながら、なお罪人を救うために神がおできなる最大限であった。なぜ人は贖いのテーマを研究しなければならないのでしょうか?それは人の思いが従事できる最大の主題である。もし人が十字架に示されたキリストの愛を熟考するならば、彼らの信仰は強められてこのお方の流された血の功績を自分のものとし、こうして罪から清められ、救われるようになる。律法的な宗教、すなわち単なる罪の悔い改めに頼るがゆえに、失われる者が多くいる。しかし罪のための悔い改めだけではどんな魂も救われることはできない。人は自分自身の働きによって救われることはできない。キリストなしに神の律法に対する完全な従順をお捧げすることは不可能である。そして天は不完全な従順によって得ることは決してできない。なぜならこれは全天を危険にさらし、第二の反逆の可能性を引き起こすからである。」(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1889年12月30日)

b. 聖都に入るすべての人は、どのような状態ですか (エペソ人への手紙 5:27; イザヤ書 43:25)。

5. 調査審判は福音の一部である

- a. 2300 日と調査審判に関するメッセージは、どのように世界に伝える福音のメッセージの一部をなしていますか (ヨハネの黙示録 14:6, 7, 12)。

「1844 年に始まった審判の働きは、生きている者も死んだ者も、すべての者の運命が決定されるまで継続しなければならない。したがって、これは、人類の恩恵期間の終わりまで続くのである。人々に審判に立つ準備をさせるために、メッセージは、『神をおそれ、神に栄光を帰せよ。』『天と地と海と水の源とを造られたかたを、伏し拝め』と彼らに命じている。……審判に対する備えをするためには、人は神の律法を守らなければならない。その律法が、審判の時の品性の規準となるのである。」(各時代の斗争闘下巻 154)

- b. 1844 年秋の審判の開始は、どのように聖所の清めの成就を示しますか (ダニエル書 8:14)。

「救いのメッセージは、各時代において宣べ伝えられてきた。しかし、このメッセージは、終末時代においてのみ宣布される福音の一部分である。というのは、その時において初めて、さばきの時が来たということが出来るからである。」(同上 50)

- c. わたしたちが生きている時代のこの厳粛さという光に照らして、わたしたちは何をすべきでしょうか (マルコによる福音書 13:33; ヨハネの黙示録 3:3; 22:11)。

「贖罪の働きが終結しようとするときの光景は、実に厳粛である。そこには、実に重大な意義が含まれている。審判は今、天の聖所において進行中である。長年にわたって、この働きは続けられてきた。間もなく—その時がいつかはだれも知らないが—生きている人々の番になる。神のおそろべき御前で、われわれの生涯が調査されねばならない。…

調査審判の働きが終わるとき、すべての人の運命は、生か死かに決定されてしまっている。」(同上 224, 225)

個人的な復習問題

1. なぜ紀元前 457 年が 70 週の始まりとなるのですか。
2. キリストのバプテスマが第 70 週目の始まりであったことが、どのようにわかりますか。
3. 第 70 週目の諸事件は、どのように 2300 日の終わりを決定しますか。
4. 新エルサレムに入るためには、どのような種類の品性を形成する必要がありますか。
5. 今日伝えるべき永遠の福音のメッセージの本質的な部分を一つあげなさい。

会衆の義務

暗唱聖句：「ある人たちがいつもしているように、集会をやめることはしないで互に励まし、かの日が近づいているのを見て、ますます、そうしようではないか。」（ヘブル人への手紙 10:25）

「神の子供たちの失敗は、みな彼らの信仰の欠如が原因である。」（人類のあけぼの下巻 336）

推奨文献：クリスチャンの奉仕 304-309 「祈りと伝道集会」

日曜日

8月20日

1. 必要条件

- a. 型としての制度における贖罪の日に、人々が団体としてではなく個人として裁かれたということが、どのようにわかりますか（レビ記 23:29, 30）。
- b. キリストの奉仕が天の聖所で行われている時に、わたしたちはどのようにしてこの働きに参加することができるのでしょうか（ヘブル人への手紙 11:6; ヨハネの第一の手紙 5:4）。
- c. この種類の信仰には何が起こりますか（ローマ人への手紙 3:31; ヤコブの手紙 2:17）。

「神はきよめられた心に忠誠の誓いを求めておられる。その心は、愛によって働く信仰を实践することにより、神に奉仕するために準備されているものである。神はわれわれの前に最高の理想、完全さをも掲げてくださる。神はご臨在によって絶対に、また完全にわれわれのものとなって下さると同様に、われわれにもこの世において完全に神のものとなるよう求めておられる。」（患難から栄光へ下巻 269, 270）

「神の恵みの奇跡によって、多くの人が有用な生活をするのに適した者とされることが出来る。彼らは軽蔑され、見捨てられて、全く失望しきっている。彼らは平然として頑固な態度をとるかもしれない。しかし彼らの向上を望みのないものにしていく愚鈍は、聖霊の働きによって消滅してしまうのである。鈍い頭も覚せいするに至り、罪の奴隷が自由の年となる。不道徳は消え去り、無知はなくなり、愛によって働く信仰を通して心は純化され、精神は

明るくなる。」（ミストリー・オブ・ヒーリング 145）

- d. 贖罪の日にしなければならなかった具体的な事柄を挙げなさい（レビ記 23:27-30）。

2. 清め

- a. 天ではわたしたちの大祭司は活発に働いておられるので（ヘブル人への手紙 10:21; 3:1）、地上ではどのような種類の人々が必要とされていますか（ヘブル人への手紙 10:22; テトスへの手紙 2:14）。

「天の聖所におけるキリストのとりなしがやむとき地上に住んでいる人々は、聖なる神の前で、仲保者なしに立たなければならない。彼らの着物は汚れがなく、彼らの品性は、血をそそがれて罪から清まっていなければならない。キリストの恵みと、彼ら自身の熱心な努力とによって、彼らは悪との戦いの勝利者とならなければならない。天で調査審判が行なわれ、悔い改めた罪人の罪が聖所から除かれているその間に、地上の神の民の間では、清めの特別な働き、すなわち罪の除去が行なわれなければならない。」（各時代の争闘下巻 140, 141）

- b. 教会での交わりがないとき、わたしたちの生来の傾向は何ですか（申命記 12:8; 士師記 17:6; 箴言 12:15）。

「わたしたちの兄弟たちが自発的に宗教的な集会に欠席するとき、神のことが考慮されず、敬われないとき、またこのお方が彼らの勧告者としてまた力強い要塞として選ばれないとき、どれほど速やかに世俗的な思いや悪い不信仰が入り込み、むなしい自信や哲学が、謙遜な信頼する信仰にとって代わることであろう。」（教会への証 5 巻 426, 427）

「自分のうちに閉じこもっていながら、クリスチャンでいられるなどという考えを決して抱いてはならない。一人一人が人類という大きな網の一部であり、あなたの経験の性質と品質は、あなたと交わる人々の経験によって大部分決まるのである。」（同上 7 巻 190）

- c. わたしたちはどのように清められるのでしょうか、またなぜ清めるものにはこれほどの力があるのでしょうか（ヨハネによる福音書 15:3）。これがどのようにして起こるのかを説明しなさい（ヨハネの黙示録 1:5; 7:14）。

「天には完全な秩序と、完全な従順、完全な平和と調和がある。この世の人生で秩序や規律を尊重しなかった者は天で守られている秩序を尊重しないであろう。彼らは決して天に受け入れられることはできない。なぜなら、そこに入るのにふさわしい者はみな、秩序を愛し規律を尊重するからである。この世の人生で形作られた品性は将来の運命を決定するであろう。キリストが来られる時、このお方はどの人の品性も変えることをなさらない。貴重な恩恵期間がわたしたちの品性という衣を洗い、小羊の血でそれを白くするために用いるよう与えられている。罪の汚れを取り除くのは一生を要する働きである。自己を抑制し否定するために、毎日新たな努力が必要とされている。」（同上 4 巻 429）

3. 聖なる集会

a. 宗教的な集会の目的は何ですか（ヘブル人への手紙 10:23, 24）。

「特別にあなたは宗教的な集会に出席せず、光の通路という最も健全な感化の下に自らの身をおこななかったことによって、多くを失ってきた。キリストを証しするという貴重な機会は重要でないと決してみなされるべきではない。神の民が熱心に活動する証人としてこのお方を礼拝するために集まる時、彼らは豊かな祝福を受けるということをあなたは知っているであろうか。彼らはキリストの代表者であり、このお方は彼らを祝福するためにそのただなかにおられる。」（エリ・G・柯什 1888 年原稿 1683）

「主イエスのことを考えなさい。またこのお方の功績と愛を考えなさい。他人の欠点や彼らが犯した過ちを見つけようとしてはならない。あなたが認め、称賛する価値のあるものを思い出しなさい。もしあなたが他人の間違いを判断するのに鋭ければ、良い人を認め、良い人を称賛するのにもっと鋭くなりなさい。あなたがもし自分を批判するなら、他人の中にあるのと同じ不快なものを、あなたは自分の中にも見出すことができる。そうであれば最も聖なる信仰のうちに、お互いを強めるために絶えず働こう。」（わたしたちの高い召し 232）

b. 同類の信徒たちの集会が最も緊急に必要とされているのは、いつですか（ヘブル人への手紙 10:25）。

「主のためにできることの半分もせずに人生を浪費している者のために働きなさい。彼らに自分の責任感に目覚めさせるように努めなさい。その日が近づいているのを見えますお互いのために祈り合い、熱心に勧め合いなさい。兄弟は兄弟に、姉妹は姉妹に言おう『わが働き人よ、来なさい。わたしたちの働きにすべての真剣さをつぎこもう。夜は近づいており、そのときはだれも働けなくなる』。働くべき時に無駄話によって数分でも失わないようにしましょう。」（伝道 653）

c. わたしたちはだれと、また何の目的で会うべきなのでしょう（マタイによる福音書 18:19, 20; ユダの手紙 3）。

「真理のことが語られると、人々はめったに、『それは本当だろうか』とたずねないで『それはだれから支持されているだろうか』とたずねる。大衆は、それを受け入れる人の数で評価する。『学者や宗教界の指導者たちの中には信じている者があるだろうか』という質問がいまでもきかれる。キリストの時代と同じように、今日も人々は真の信心に対して好意を示さない。彼らはあいかわらず永遠の富をなおざりにして、地上の幸福を熱心に求めている。多数の人たちがそれを受け入れようとしなとか、世の偉い人たちや宗教界の指導者たちさえそれを受け入れないということは、真理に反対する論拠とはならない。」（各時代の希望中巻 244, 245）

4. 魂を悩ます

- a. わたしたちがこの世で苦難に耐えることができる唯一の方法は何でしょうか（ヘブル人への手紙 12:2; 3:1）。

『では、』ある者が言う『わたしは手放します、わたしはやめます。そしてほかの人が来てわたしの代わりをすることができるだろう』。神との密接な関係を維持することはしないと完全に決心しているのではないが、こうすべきではない。もしあなたとイエスの間にサタンが入り込む余地を開けておくならば、サタンには数多くの提案があるであろう。そこにはふんだんに機械があり、機械的な働きに信頼するかもしれないが、唯一あなたに御霊を注ぎこみ、危険な時に敵に対して旗を掲げることがおできになるお方が除外されているのである。あなたの限られた知恵に頼るのでは成し遂げられない。なぜなら、最善を尽くしてもあなたの経験には限界があり、あなたの手にある働きを安全に賢く管理することにおいてあなたは知っていると思っているが、半分も知っていないからである。」(Ely・G・ワット 1888 年原稿 932)

- b. レビ記 23 章の魂を悩ませるとは贖罪の日の断食であることが、どのようにわかりますか（レビ記 23:28, 29; ネヘミヤ記 9:1, 2; エステル記 4:3; ヨエル書 2:12, 13）。

「この儀式全体は、神が聖であられて、罪をいみぎらわれることを、イスラエルの人々に深く感じさせるよう意図されていた。そして、さらに、罪に触れるならば必ず汚れることを、彼らに示すものであった。贖罪の業が進行している間、すべての者は、身を悩まさなければならなかった。仕事をすべてやめて、イスラエルの全会衆は、厳粛に神の前にへりくだり、祈り、断食し、心を深く探って一日を過ごさなければならなかった。」(各時代の斗争闘下巻 134)

- c. たとえ断食のようなことであっても、体を抑制のもとに保つことは、どれほど重要でしょうか（ヤコブの手紙 3:2; ローマ人への手紙 6:12; コリント人への第一の手紙 9:27）。

「使徒パウロは、自分を、賞を得ようとして全力をつくす走者にたとえている。……パウロは、クリスチャンの競走において、目標のはっきりしないような、いいかげんな走りかたをしないために、厳しい訓練に自らを従わせた。『自分のからだを打ちたたいて』という言葉は、定義的には、厳しい訓練によって、欲望、衝動、情欲などを抑制するという意味である。」(患難から栄光へ上巻 338)

「わたしたちは、人類の益となり神に完全な奉仕をささげることができるように、精神を純潔にからだを健康に保つべき厳粛な責任を神に負っている。」(アドベンチスト・ホーム 126)

5. 終わりの時の断食

- a. 終わりの時における神の教会の大きな必要を述べなさい（マタイによる福音書 17:19–21; ヨエル書 2:15）。

「〔弟子たち〕の信仰は熱烈な祈りと断食、また心のへりくだりによって、強められねばならない。彼らは自分をむなしくして神の霊と力に満たされねばならない。信仰、すなわち神にまったくよりたのみ、神のみわざに全的に献身するようになる信仰をもって、熱心にたゆまず神に嘆願することによってのみ、人は『もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦い』において、聖霊の助けを受けることができるのである（エペソ 6:12）。」（各時代の希望 中巻 204）

「神はすべての人が、祈りと断食によって、真理の関連と立場を徹底的に辛抱強く調べることを望んでおられる。信徒たちは何が真理を構成しているかについて憶測や不鮮明な考えにやすんじてはならない。彼らの信仰は神のみ言葉の上にとっかりと基づいていなければならない。そうすれば試練の時が来て、自分たちの信仰について答弁するために議会に引き出されても、彼らは柔和と恐れをもって自分たちのうちにある希望の理由を答えることができるであろう。」（福音宣伝者 299）

- b. ヨエルは特別にどの日についてのべましたか（ヨエル書 2:28–32）。使徒の時代にそれは部分的に成就したものの、それはどのように終わりの時に言及していますか（使徒行伝 2:17, 20）。

「1780年5月19日は、歴史上『暗黒日』となっている。モーセの時代以来、これほどの濃さと広さと時間的長さをもった暗黒は、記録されていない。目撃者によるこの事件の描写は、その成就の2500年前の預言者ヨエルが記録した主の言葉のくり返しに過ぎない。『主の大いなる恐るべき日が来る前に、日は暗く、月は血に変わる』（ヨエル書 2:31）。」（各時代の大争闘上巻 396）

個人的な復習問題

1. 最終的な終わりが近づくにつれてなぜ個人的な経験が必要なのでしょう。
2. 聖所で清めが天で行われているときに、地上では真の神の民の間でそれに応じるとどのような働きが行われていますか。
3. 終わりが近づいているとき、同類の信徒たちが集会をもつことがなぜ重要なのでしょう。
4. なぜ体の抑制がクリスチャンの成長と関係しているのでしょうか。
5. なぜわたしたちは適切な断食を祈りと関連づけるのでしょうか。

第一安息日献金 アメリカ合衆国コロラド州ランパート・ビュー・ランチのために

ランパート・ビュー・ランチ (RVR) は、アメリカ合衆国コロラド州のデンバーから一時間のところに位置しています。デンバーはグレートプレーンズの広大な空間から生じ、ロッキー山脈の前面に取り囲まれています。デンバーは海拔 1609 メートルの高さのある「マイラー・ハイ・シティ」として知られ、人口は 300 万人を越えます。北アメリカの中央にあって、移動者の多い国際線の空港があり、容易に来ることができますし、地球規模で人気の高い目的地です。

RVR は、コロラド州のロッキー山脈の高い所にあり、北アメリカ地方のわたしたちの教会にとって真の祝福です。何年にもわたって、この施設は数多くの青年集会、結婚式場、文書伝道プロジェクト、会議や働き人の集会の主催地となってきました。美しい建物は、山脈におよそ 200 エーカーにおよぶ比類のない人里離れた平穏さを提供しており、すべては主の忠実な導きと驚くべき摂理を通して可能となりました。

「くりかえし主はわたしたちに出先のセンターから諸都市に働くようにと教えてこられた。これらの諸都市に、わたしたちは神の記念塔として礼拝の家を持たなければならない。しかしわたしたちの文書の出版のため、病人の癒しのため、また働き人の訓練のための場所は、諸都市の外に設立しなければならない。特にわたしたちの青年たちが都市生活の誘惑からかくまわれることは重要である。」(レクティッド・メッセージ 2 巻 358)

RVR はアメリカ合衆国の政府の土地所有会社から、およそ完了までに 10 年かかった手続きを通して購入しました。その土地には岩石層、木々、荒野があっても建設物や道路のないエーカーがあります。何年にもわたり、神のみ助けと惜しみないボランティアの働きによって、RVR は奉仕のために現在の収容能力を持つまでに成長してきました。礼拝堂と食堂の建物が、いまこの所有地の主要なもので、そこに客室や寮があります。ここまで発展してきましたが、RVR は清水の供給不足に苦しんでいます。奉仕し、拡張するための土地の収容能力は、水不足によって制限されています。わたしたちは主になおこの土地のために、ご自分の教会とわたしたちのまわりの世界を祝福するための大きなご計画があることを知っています。皆さんの惜しみない援助と神の恵みをもって、わたしたちは新しい井戸を掘り、この施設が次世代に奉仕できるようにする資金を集めることができます。神様が捧げ物と捧げる人を祝福してくださいように！

中央アメリカフィールドから皆さんの兄弟より



食事の検討事項

暗唱聖句：「特にその七月の十日は贖罪の日である。あなたがたは聖会を開き、身を悩まし、主に火祭をささげなければならない。」（レビ記 23:27）

「すべての人に勧めるべき真の断食はあらゆる種類の刺激的な食物を禁じ、神が豊富に備えて下さった健康的で単純な食物を正しく用いることである。人間は肉体の食物については、何を食し何を飲むかを考えることを少なくし、宗教的な体験全体に弾力と活気を与える天からの食物について、はるかに多く考える必要がある。」（食事と食物に関する勧告 83）

推奨文献： クリスチャンの節制と聖書の衛生 117-121

日曜日

8月27日

1. その日

- a. 預言の中でどの特別な日が特定されていますか（イザヤ書 22:12, 20, 22）。
- b. 新約聖書はキリスト再臨の直前の出来事と関連付けて、どのようにその日に光を当てていますか（ヨハネの黙示録 3:7-11）。

「〔黙示録 3:7, 8 引用〕。キリストは、至聖所の門を、つまり、その務めを、お開きになった。そして、光が、天の聖所のその開かれた門から輝いていた。そして、そこに置かれた律法の中に第四条の戒めが含まれていることが示された。神が確立されたものを、だれも覆すことはできなかった。」（各時代の争闘下巻 154）

「サタンが、神の民をその罪のゆえに責めるときに、主はサタンが、彼らを極限まで試みることを許される。神に対する彼らの信頼、彼らの信仰と堅実さが、激しく試みられる。彼らは、過去をふりかえると、望みを失ってしまう。なぜなら、その全生涯の中に、よいところをほとんど見ることができないからである。……

もし彼らが、許しの確証を持つことができ ならば、拷問も死をもいとわないであろう。しかし万一、許しに値しない者であることがわかって、自分自身の品性の欠陥のゆえに生命を失うようなことがあれば、それは神の聖なるみ名を辱しめることになってしまう。」（同上 391, 392）

2. 本体としての贖罪の日

- a. 開かれた門の文脈を読むとき、それが天の神の宮に関連していることがどのようにわかりますか (ヨハネの黙示録 3:12)。

「イエスが聖所の門を閉じられたので、だれもそれを開けることはできない。また彼が至聖所への門を開かれたので、だれもそれを閉じることができないことを、わたしは見た (黙示録 3:7, 8 補遺及び付録参照)。そしてイエスが、箱のある至聖所の門を開いて、戒めが神の民に対して輝き出ているので、彼らは安息日の問題によって試みられていることを、わたしは見た。」(初代文集 106)

- b. キリストは調査審判の結果として、来臨のときには報いを携えて来られるので (ヨハネの黙示録 22:12; 11:18)、天では何が十誡の権威を示して、開かれなければならないませんか (ヨハネの黙示録 11:19)。

「わたしは安息日についての現在の試みは、イエスが聖所における奉仕を終わって、第二の幕の中に入って行かれるまでは、起こり得なかったことを見た。従って、1844年7月に夜中の叫びが終わり、至聖所への門が開かれる前に眠りについたキリスト者たちは、安息日を守っていなかったが、今希望の中に眠っている。というのは、彼らは、門が開かれてわれわれに与えられた安息日の光や試みを持たなかったからである。わたしは、サタンがこの点について神の民のある人々を誘惑するのを見た。非常に多くの立派なキリスト者が、真の安息日を守らずに信仰の勝利を収めて眠っているの、彼らは安息日が今、われわれに対するテストであるかどうかについて疑惑をいだいたのである。」(同上 106, 107)

- c. 本体としての贖罪の日には、食事におけるどのような種類の制限を見ることができますか (イザヤ書 22:12, 13)。

「くりかえし何度も、わたしは神がわたしたちを一步一步ご自分の初めの計画一人が地の自然の産物を食べて生きていくご計画へ導き返そうとしておられることを示された。主が来られることを待ち望んでいる人々の間からは肉食は最終的には廃止されるであろう。肉類が彼らの食事の一部を占めなくなるのである。わたしたちは常にこの目的を覚えつつ、それに向かって着実に働くよう努めるべきである。肉食の習慣にある限り、神が喜んで与えてくださった光に調和しているとは考えられない。特にわたしたちの健康機関に関わりのあるすべての者は、果物、穀物、野菜を食べて生きるように自らを教育するべきである。もしわたしたちがこれらのことで原則に基づいて行動し、クリスチャンの改革者として自分の嗜好を教育し、自分たちの食事を神の計画に調和させるならば、そのときこの問題において他の者たちに感化を及ぼすことができ、それは神の喜ばれることなのである。」(クリスチャンの節制と聖書の衛生 119)

3. 節制

- a. わたしたちが食べる食物の種類ということ以外に、再臨のために準備する際、わたしたちは何を考慮すべきですか（ルカによる福音書 21:34-36）。

「牧師も、教師も、生徒も戸外での運動の必要性について知的になるべきほど、なっていない。彼らはこの義務をなおざりにするが、これは健康を維持するために最も重要である。彼らは本に自分たちの注意を専念しているのに、労働者のように食べることを許している。このような習慣の下では、ある人々は体の器官を詰まらせ肥満となる。他の者は過度な食事を排出するために生命力が使い果たされ、痩せて、貧弱な衰えた者となる。肝臓には負担がかかり、血液の中の不純物を取り除くことができなくなり、その結果は病気となる。もし肉体的な運動と精神的な運動が結び付けられるなら、血液の循環が活発化し、心臓の働きがより完全になり、不純物が排出され、体のあらゆる部分において新しい命と活力を経験するであろう。」（健康に関する勧告 572）

「安息日には、他の日よりも豊富な、あるいは多種多様な食物を出してはならない。むしろ、いつもより単純な食事にし、量も少なくして、頭脳が明晰で活発になり、霊的な事柄を理解できるようにすべきである。食べすぎは脳をぼんやりさせる。正しくない食事によって頭が混乱するために、この上ない貴重な言葉を聞いても、それを正しく理解することができない。安息日に食べ過ぎることによって、多くの人は、自分で考えている以上に神の名をけがしている。」（家庭の教育 579）

- b. 聖書において過食と大酒飲みはどのように関連づけられていますか（箴言 23:20, 21, 31, 32）。

「どこにでも存在する放縦を嘆く母親の多くが、その原因を認めるほど十分深く調べていない。彼らは毎日食欲を誘い、過食を促すさまざまな料理や味付けの濃い食事を用意している。…あまりにも頻繁に食し、また健康的ではない品質の食物をたべて食欲をほしいままにする者は、誤った食習慣への傾向を強めてきたのに比例して他の点でも食欲や情欲のやかましい要求に抵抗する力を弱めている。母親はよく発達した品性を持った子供たちを社会に送り出すという神と世に対する義務をはつきりと理解させられる必要がある。確固たる原則をもって活動の舞台に立つ男女はこの腐敗した時代の道徳的な汚れのただなかでも汚されずに立つのにふさわしいものとされることだろう。有用性と義務のために自分たちの子供たちを正しく教育する黄金の機会を生かすのは母親の義務である。」（健康に関する勧告 606, 607）

4. キリストは勝利された

a. エデンでの罪に食事はどのように関わっていましたか（創世記 2:16, 17; 3:1-6）。

「[へびの姿をしたサタン] は、アダムとエバの食欲に訴えかけたとき、彼らが彼のほめかしに抵抗できなかったことを喜んだ。古い世界の住民たちをも彼は同じように強い食欲と墮落した情欲の放縱を通して打ち負かしてきた。食欲を満足させることを通して彼はイスラエル人を倒した。…神の特別の恩寵を受けていたダビデやソロモンも、彼は食欲の放縱と情欲を通して神の不興を招くように仕向けた。そして彼はイエス・キリストを通して人の救いにおける神のご計画を妨害することになおも成功できると誇った。」（闘争 33, 34）

b. キリストはどの点で同様に試練を受け、どのようにして決定的に勝利されましたか（マタイによる福音書 4:3, 4）。

「食欲にふけるという誘惑の強さは、荒野における長い断食のうちにあったわたしたちの贖い主の言い表しようのない苦悩によってのみ測ることができる。このお方はゆがめられた食欲の放縱は、あまりにも人の知覚力を死滅させて、神聖な事柄を見分けることができなくなることを知っておられた。アダムは食欲の放縱によって墮落した。キリストは食欲の否定によって勝利された。そして、わたしたちのエデンを取り戻す唯一の希望は確固たる自制心を通してである。もし人類に対する食欲の放縱の力があまりにも強く、それを打ち砕くために神聖な神の御子が人間に代わって6週間近くも断食に耐えなければならなかったとすれば、クリスチャンの前にはなんとという働きがあることであろう！しかし、どれほど苦闘が大きくても、彼は打ち勝つことができる。サタンが考えつくもつとも激しい誘惑に耐えた神聖な力の助けによって、彼もまた悪との戦いにおいて完全に成功することができ、最後に神の国で勝利の冠をかぶることができるのである。」（クリスチャンの節制と聖書の衛生 54）

「誘惑の荒野で、キリストは40日間、食物がなかった。モーセは特別な機会に、そのような長期間食物なしでいた。しかし彼は空腹の苦しみを感じなかった。彼は神の御子のように、卑劣で強力な敵から誘惑され悩まされることはなかった。」（闘争 34）

「今、人間はサタンとの戦いにおいてアダムよりも有利である。なぜなら彼は不従順とその結果の墮落というアダムの経験があり、彼の模範を避けるように警告されているからである。また人は食欲とさまざまなサタンの誘惑に打ち勝ち、あらゆる点で強大な敵を征服し、あらゆる戦いで勝利者となられたキリストの模範がある。もし人がつまずきサタンの誘惑に陥るとすれば、彼には弁解の余地がない。なぜなら彼には警告としてアダムの不従順があり、そして従順と自己否定の模範として世の贖い主の生涯があるからである。」（同上 64）

5. 清め

- a. もし近代の贖罪の日に、わたしたちがまだ肉食をし、アルコール飲料を使用していたとすると何が起こるのでしょうか（イザヤ書 22:14）。

「現代の真理を聞いたことのない人がメッセージを聞くと、彼らの食事に一大改革がおこなねばならないことを彼らは悟る。肉類は酒に対する欲を起こさせ、身体を病気で満たすから、これは止めなければならないということを理解するのである。肉食によって、体力も知力も道徳力も弱まる。人は自分の食べる物によって構成されており、肉食や喫煙や飲酒の結果、動物的な欲情が支配的になるのである。主は、地の産物から肉類の代わりになる食物を作る知恵を彼の民にお与えになる。堅果類や穀類、および果物を単純に組み合わせ、味良く手際よく製造されたものが、未信者には受けが良いだろう。しかし、いつもの事ながら、あまりにも多くの堅果類が、配合されたものの中で用いられている。」（食事と食物に関する勧告 250）

「肉食を続けることによって、確かな害が身体に及ぼされる。墮落し、ゆがめられた食欲以外に、それに対する言い訳はないのである。『あなたは完全に肉食を廃されるおつもりですか』とあなたは尋ねるかもしれない。私は答える、最後にはそこに達するのであるが、今はその段階を踏む準備がわたしたちにはできていない。肉食は最後には廃止される。動物の肉がもはやわたしたちの食事の一部ではなくなり、わたしたちは肉屋も嫌な気持ちで見ようになるであろう。神がご自分の民を本来のご計画、すなわち死んだ動物の肉で生きていくのではないという計画に戻そうとしておられることをわたしは繰り返し示された。」（食事と食物に関する研究の証 69）

- b. もし贖罪の日に神の条件に応じるならば、わたしたちに何が起きますか（レビ記 16:29, 30）。
- c. イエスが来られる直前に忠実な者たちに対して、どのような最終的な宣言がなされるのでしょうか。またそのことは、何にわたしたちを導くべきですか（ヨハネの黙示録 22:11-14; ペテロの第二の手紙 1:10）。

個人的な復習問題

1. イザヤ 22 章と贖罪の日をどのように関連付けますか。
2. イエスが至聖所への門を開かれたとき、何が起こりましたか。
3. 飲食を含めて、わたしたちの体を抑制するのがなぜそれほど重要なのでしょうか。
4. なぜキリストは食欲の点に関して試みられ、打ち勝たなければならなかったのでしょうか。
5. なぜ肉食は、キリストの再臨を待っている神の民の食事の一部となることができないことがわかりますか。

食事の歴史

暗唱聖句：「愛する者よ。あなたのたましいがいつも恵まれていると同じく、あなたがすべてのことに恵まれ、またすこやかであるようにと、わたしは祈っている。」（ヨハネの第三の手紙 2）

「人が不信仰に心を明け渡すと、サタンの支配下に自らを置くこととなり、そして彼がどこまで彼らを導いていくかはだれも告げることができない。」（レビュー・アンド・ヘルド 1903 年 10 月 29 日）

推奨文献： 人類のあけぼの上巻 337-335, 448-458

日曜日

9月3日

1. 回復

- a. キリストが来られる前に、初めに与えられた諸原則の回復がなければならないことを、わたしたちはどのように知ることができますか（使徒行伝 3:20, 21; エレミヤ書 6:16）。
- b. 本来の食事は何でしたか。またなぜ野の草が必要になりましたか（創世記 1:29; 3:17, 18; 詩篇 104:14）。

「わたしたちは人の食事のために神の本来のご計画を研究しなければならない。人間を創造し、その必要を理解しておられる神がアダムの食物を定められた。〔創世記 1:29 引用〕。罪ののろいを受け、土地を耕して生活するためエデンを去るとき、人間は『野の草』をも食する許可をうけた。

穀類、果実、堅果類、野菜がわたしたちのために創造主のお選びになった食物である。こうした食物をできるだけ単純に自然のまま調理したものが最も健康的で栄養がある。それはさらに複雑な刺激的な食物によっては得られない力と耐久力と知能の力を与える。」（ニストリー・オブ・ヒーリング 273, 274）

- c. 肉食を許されるのが神の御心ではなかったということがどのようにわかりますか（エゼキエル書 20:24, 25; 申命記 12:20; 詩篇 106:14, 15; ローマ人への手紙 7:7）。

「人間の食物として神が指定された計画から離反したため、イスラエル人は非常に損失をこうむった。」（同上 288）

- d. なぜ神は脂肪や血を食することを禁じられたのですか（レビ記 3:17; 17:11; 使徒行伝 15:20）。

2. イエスのために準備ができているか？

- a. なぜこれほど多くのヘブル人が荒野で滅ぼされたのですか（コリント人への第一の手紙 10:5-10; ヘブル人への手紙 3:19）。

「シオンの城壁の上の見張り人たちは、救い主の来臨の知らせを最初に認め、最初に声をあげてその近いことを宣言し、人々に、その来臨のための準備をするよう最初に警告を発すべきであった。しかし彼らは、安易な気持ちで平穩 無事の夢をむさぼっていた。そして人々は、罪のなかで眠っていた。イエスは彼の教会が、葉ばかり数多く茂っているが、貴い実のなっていない、実のないいちじくのような状態であるのを見られた。宗教の形式は遵守してそれを誇っていたが、真の謙そん、悔い改め、信仰の精神は欠けていた。実はこれらだけが、神に喜ばれる礼拝であったのである。聖霊の実の代わりに、高慢、形式主義、虚栄、利己心、圧迫などがあらわれていた。背信した教会は、時のしるしに対して目を閉じてしまった。神は、彼らを捨てたり、誠実を曲げたりなさらなかった。しかし、彼らは神から離れ、神の愛から離反したのである。彼らが条件に従うことを拒んだときに、神の約束は、彼らに果たされなかったのである。」（各時代の斗争闘上巻 405）

「わたしたちは時間が短いということ覚えていよう。奉仕のための黄金の機会が無視されていると人々に伝えなさい。すべての国民は主を求めることを遅らせることがないように警告され、教えられるべきである。なぜなら、多数の天使の群れを欺いたあの強力な天使がその魅惑的な策略を実行に移すためにたゆまず働き続けているからである。その策略によって彼は何百万もの者たちをだましてきた。そして、またそれを通して全世界を欺こうと望んでいる。預言者ゼカリヤが記した働きは、終わりの時の前にイスラエルのために成し遂げられるべき霊的回復の型である。」（原稿リ-ス1巻 315）

- b. どのようにそれは再臨の準備において、わたしたちに当てはまりますか（コリント人への第一の手紙 10:11）。

「神の日に立ち得る民を準備するには、改革の大いなる働きが成し遂げられねばならなかった。神は、神の民と称する人々の多くが、永遠のために築いていないのを見られ、あわれみのうちに彼らに警告の使命を与えて、彼らを昏睡から目ざめさせ、主の再臨の準備をさせようとされた。」（各時代の斗争闘上巻 400）

「むかしのイスラエルの歴史は、再臨信徒の団体の過去の経験の、顕著な事例である。神は、イスラエルの人々をエジプトから導き出されたように、ご自分の民を再臨運動において導かれた。大失望のときに、彼らの信仰は、ヘブル人が紅海で試みられたような試練を受けた。もしも彼らが、過去の経験において彼らとともにあった神の導きの手に、なおも信頼していたならば、彼らは神の救いを見たことであろう。」（同上 182）

3. マナのつぼ

- a. エジプトを出る際、ヘブル人はすぐに何を求めて叫びましたか。また神は何をしようとしておられたか (出エジプト記 16:3, 13-15)。

「イスラエル人は、エジプトの奴隷生活の間、最も単純な食物を食べて生命をつなげなければならなかった。しかし、困苦と激しい労働と空腹のために、それをおいしく食べることができた。ところが、彼らと一緒に来ていたエジプト人の多くは、ぜいたくな食事になれていた。まず、このような人々がつぶやき始めたのである。イスラエルがシナイに到着する直前に、マナが与えられたとき、主は彼らの熱心な願いに応じて肉をお与えになったが、それはただ一日だけのことであった。

神は、マナと同様に肉もたやすくお備えになることができたのであるが、それが与えられなかったことは、彼らのためを考えた上でのことであった。多くの者がエジプトで食べ慣れていた刺激性的な食物よりも更によい食物を与えることが、神のみこころであった。ゆがめられた食欲を、もっと健康な状態にもどさなければならなかった。それは、神がエデンの園で、アダムとエバにお与えになった地の果実など、人間に最初に与えられた食物を楽しむことができるようになるためであった。イスラエルの人々に動物の肉がほとんど与えられなかったのは、こうした理由からであった。」(人類のあけぼの上巻 449, 450)

- b. 天使たちはどのようにして彼らのためにより良い食事を用意しましたか (詩篇 78:25)。

「40 年の間、彼らはこの奇跡的な供給によって、神の絶えることのない守護とやさしい愛を毎日自覚させられた。詩篇記者のことは、神は『天の穀物を彼らに与えられた。人は天使のパンを食べた』と言われている (詩篇 78:24, 25)。天使のパンとは、天使たちによって彼らに与えられた食物ということである。」(同上 344) れた。

- c. この食物はどのように記念とされましたか (出エジプト記 16:32, 33; ヘブル人への手紙 9:4)。

「わたしは、至聖所で箱を見た。それは上も横も純金でおおわれていた。箱の両側に美しいケルブが立っていて、箱の上にその翼を広げていた。彼らは互いに向き合い、下の方を見つめていた。天使たちの間に黄金の香炉があった。箱の上の方の天使たちが立っている所に、非常に明るい栄光が輝いていて、それは神がおられるみ座のように見えた。イエスは箱のそばに立っておられた。そして、聖徒たちの祈りが彼の所にのぼってくると、香炉の中の香が煙って、彼は香の煙とともに彼らの祈りを彼の父にささげられるのであった。箱の中には、マナの入った黄金のつぼと、芽が出たアロンの杖と、書物のようにたたまれた石の板とがあった。イエスはそれを開かれた。そしてわたしは、そこに神の指で書かれた十誡を見た。」(初代文集 91, 92)

4. エジプトの肉のつぼ

- a. 最初に自分たちの食事についてつぶやいたのはだれでしたか。特にどの種類の肉でしたか。また彼らがその副菜として用意された料理を切望したのではないことがどのようにわかりますか (民数記 11:4-6, 9-13)。

「〔ヘブル人たちは〕天使たちが彼らのために用意し、天から送ってくれた食べ物に飽きた。彼らはそれがまさに神が彼らにとるよう望まれた食物であり、自分たちと子供たちの健康のためであることを知っていた。荒野での困難にもかかわらず、彼らのすべての部族の中には弱者が一人もいなかった。病気と不幸の創始者であるサタンは、彼が最も成功を得ることができるところから神の民に接近する。彼はエバに禁じられた木の実を食べるように先導するという試みに成功した時から、食欲を大幅に支配してきた。彼はまず寄り集まり人、すなわち信じたエジプト人に誘惑をもってきて、つぶやきを扇動するように彼らを煽ったのである。彼らは神が彼らのために与えてくださった健康的な食べ物では満足しなかった。彼らの墮落した食欲はより多くの種類、特に肉を切望した。」(預言の霊 1 巻 281)

- b. 神は彼らの要求にどのように応じられましたか。またこの時は彼らが最初にエジプトを離れた時よりも良い指導を受けていたので、結果は何でしたか (民数記 11:18-20, 33; 詩篇 78:27-31)。

「この例において、主は彼らのためには最善のものではないものをお与えになった。なぜなら、彼らがそれを欲したからである。彼らは自分たちの益になるような物だけを主から受けることに従おうとしなかった。彼らは自分たちに害を及ぼすことになる物を受けなかったからと言って、モーセに対して、また主に対して扇動的なつぶやきをほしきままにした。墮落した食欲が彼らを支配し、神は彼らが望んだとおりに肉をお与えになり、彼らが貪欲な食欲を満足させた結果に苦しむがままになさった。熱病で民の中の非常に多くの者が倒れた。つぶやいた中の最も罪深い者は、渴望した肉を味わうやいなやすぐに殺された。もし彼らが、主に自分たちの食べ物を選んでいただき、感謝し、害をこうむることなく無償で食べることができる食物に満足していたならば、彼らは神の恩寵を失うこともなく、反抗的なつぶやきのために多くの者が殺されるという罰を受けることもなかったのである。」(同上 1 巻 284, 285)

- c. この意図的な反逆行為をわたしたちは何と呼ぶべきですか (詩篇 78:17, 32)。

5. わたしたちの時代のために記される

- a. この霊的な結果についての警告が、今日のわたしたちのために特別に書かれたものであることを、わたしたちはどのように知ることができますか（コリント人への第一の手紙 10:11; 詩篇 106:14, 15）。

「わたしたちは古代のイスラエル人と同じ運命をたどることがないように警戒する必要があります。彼らの不従順と破滅の歴史はわたしたちの教えのために記された。それはわたしたちが、彼らがしたことを避けるためである。それが記されたのは『世の終わりに臨んでいるわたしたちに対する訓戒のためだ』った。もしわたしたちがこれらの戒めや警告を無視し、イスラエル人が発達させたのと同じ品性の特質を発達させるならば、どのような言い訳を申し立てることができるであろう。」（ビュー・アンド・ヘルド 1900 年 7 月 10 日）

- b. 地上のカナンに入る準備をしているときに、肉を求めたことは罪でした。これを新地での生活と対比しなさい（イザヤ書 11:6; 65:25）。
- c. 約束の地に入ろうとしているときに、神はどのような機会をお与えになりましたか。また実際にそこに入ったのは何人でしたか（申命記 30:19; 民数記 26:63-65）。

「荒野の中でイスラエルの民に天よりマナをお与えになった神は、今日もなお生きて、支配しておられる。…」

わたしたちは信仰をもって天を望み、外見的な失敗に失望することなく、あるいは、時が遅れるなどのために気落ちすべきではない。忠実な働き人が収穫し、たくわえるために、金銀よりも尊い、豊かな宝を地はそのふところの中に秘めていることを信じ、明るく希望にあふれ、感謝に満ちて働くべきである。山や丘は変り、地は衣のように古くなるが、荒野でその民に食を与えられた神の恵みは決して絶えることがない。」（ミストリー・オブ・ヒーリング 177）

個人的な復習問題

1. なぜ神はご自分の民をエデンでの生活方法に回復したいと思っておられるのですか。
2. 荒野におけるヘブル人の経験は、今どのようにわたしたちと関連しているのでしょうか。
3. なぜ神は契約の箱の中にマナを記念として置かれたのでしょうか。
4. 神の明らかにされた御心に意図的に反するとき、何が起こりますか。
5. 終わりの日にあくまで肉食をすることは罪であることがどのようにわかりますか。

靈感を受けた預言者たち

暗唱聖句「神は、むかしは、預言者たちにより、いろいろな時に、いろいろな方法で、先祖たちに語られたが、この終りの時には、御子によって、わたしたちに語られたのである。神は御子を万物の相続者と定め、また、御子によって、もろもろの世界を造られた。」（ヘブル人への手紙 1:1, 2）

「今日地上の神の教会—神のぶどう畑の管理者—にとって特別な価値があるのは、人類のための神の永遠のご計画を明らかにした預言者たちを通して与えられた勧告や訓告のメッセージである。預言者たちの教えの中に、失われた人類に対する神の愛と、彼らの救いに対する神のご計画がはっきりと明示されている。」（今日のわたしの生涯 40）

推奨文献： 各時代の大争闘上巻序文 1-10

日曜日

9月10日

1. 人類と交わる

- a. 罪が入ってきた後、神は人類と、どのように交わられましたか（ヘブル人への手紙 1:1, 2）。

「罪がこの世にはいる前には、アダムは創造主と分け隔てのない交わりをしていた。しかし人間が罪を犯して神から離れてからは、人類はこの尊い特権から切り離されてしまった。しかし、救済の計画によって、地上の住民がなお天とのつながりを保つ道が開かれた。」（各時代の大争闘上巻序文 1）

- b. どのように神は個人的に人類と交わられましたか（テモテへの第一の手紙 3:16; コロサイ人への手紙 2:9）。

「アダムが罪を犯して以来、人類は神との直接のまじわりから断たれ、天と地とのまじわりはキリストを通して行なわれていた。しかしまいエスが『罪の肉の様』をとっておいでになったので、天父は自らお語りになった（ローマ 8:3）。神は、以前にはキリストを通して人類とまじわられたが、こんどはキリストのうちにあって人類とまじわられた。」（各時代の希望上巻 123）

- c. イエスが父のもとへ戻られた後、何が必要でしたか。またこのお方のご目的は何でしたか（ヨハネによる福音書 14:6, 26; 15:26; 16:7, 12-14; 使徒行伝 2:16-18）。

2. 預言の賜物

- a. キリストの再臨まで、すべての霊的賜物はどのように命にかかわるほどの重要性を持っているでしょうか（コリント人への第一の手紙 1:4-8）。
- b. 何が神の最後の教会と教会のイエスの証という賜物を識別しますか（ヨハネの黙示録 12:17; 19:10; テサロニケ人への第一の手紙 5:2-5, 19-21）。

「終わりの時はわれわれの前にある。真理の知識を持つものはみな目覚めて、自分自身、体、魂、霊を神の規律の下に置くべきである。敵はわたしたちの道にいる。わたしたちは十分に目を覚まし、彼に対する警戒をしていなければならない。わたしたちは神の武具で全身を固めなければならない。わたしたちは預言の霊を通して与えられた指示に従わなければならない。わたしたちはこの時代のための真理を愛し、従わなければならない。そうすることによってわたしたちは強力な欺きを受け入れることから救われるであろう。神はご自分のみ言葉を通してわたしたちに語ってこられた。このお方は教会への証を通して、またわたしたちの現在の義務とわたしたちが今占めるべき立場を明らかにするのを助ける書物を通して語ってこられた。規則に規則、教訓に教訓、与えられてきた警告に注意を払うべきである。もしわたしたちがそれらを見捨てるならば、どんな言い訳ができるであろうか。」（福音宣伝者 308）

- c. 偽りの霊媒師に行くかわりに、わたしたちはどこに戻るべきですか（イザヤ書 8:16, 19）。

「〔神の摂理のうちに〕サタンの誘惑とわな、クリスチャン品性を完成する重要性、そしてその結果を得させる方法とが明らかにされている。このように神はご自分の祝福を確保するためには何が必要であることを示唆しておられる。多くの者は自分特有の罪を非難されると反抗的な感情が呼び覚まされる傾向にある。この時代の精神は『耳に聞きよいことを語れ』である。しかし、預言の霊は真理だけを語る。不法がはびこり、キリストに従うと公言する多くの人の愛が冷えるであろう。彼らは自分たちの心の邪悪さに盲目であり、自分の弱い無力な状態を感じない。神が憐れみのうちに覆いを取り除き、背後には彼らの隠れた罪や彼らの行動の動機を見定める目があることを示されるのである。」（教会への証 4 巻 13）

「ご自分のみ摂理のうちに、主は様々な方法でご自分の民を教え、警告するのがふさわしいと思われた。直接の命令によって、聖なる書物によって、預言の霊によって、このお方は彼らにご自分のみ旨を知らせてこられた。

古代、神は預言者たちと使徒たちの口によって人々に語られた。今日このお方はご自分の御霊の証によって彼らに語られる。今ほど神がご自分の民に、ご自分のみ旨と民が進むよう望んでおられる道に関して熱心に教えようとなさったときはかつてなかった。」（今日のわたしの生涯 40）

3. 聖書によって試される

a. 真の預言者を試す基本的な試金石は、何ですか（イザヤ書 8:20）。

「証は神の御言葉を軽視するものではなく、それを高め、人の心をそれに引きつけるものである。」（教会への証 5 巻 665）

b. もしある者が偽りの預言者であることが実証されたら、わたしたちは何をすべきでしょうか（申命記 13:1-5；ローマ人への手紙 16:17；ヨハネの第二の手紙 1:9-11）。

「〔神は〕わたしたちにご自分の民へと担うべきメッセージを与えてこられた。30 年間わたしたちは神のみ言葉を受け、それらを神の民に語り続けてきた。わたしたちは責任に震えおののき、その責任を多くの祈りと瞑想をもって受け入れてきた。わたしたちは神の大使として立ち、キリストに代って神と和解するように魂に嘆願してきた。わたしたちは神がご自分の民の危機をわたしたちの前に提示してこられたとおりに、危険について警告してきた。わたしたちの働きは神から与えられたものである。そうであれば、神が自分たちに送ってこられたみ言葉を、それらが自分の道を阻み、自分たちの過ちを譴責するからといって聞くことを拒む人々の状態はどうであろうか。…神はご自分の教会を教え、彼らの過ちを譴責し、彼らの信仰を強めるか、そうならぬかのいずれかである。この働きは神のものか、あるいはそうではないかである。神は何一つサタンと協力なさることはない。過去 30 年間のわたしの働きは、神の印かもしくは敵の印が押されている。この問題に中途半端なものはない。証は神の霊からのものであるか、または悪魔のものであるかである。」（同上 4 巻 229, 230）

「〔悪の君〕は今やキリストとその信徒たちに対する最後の闘争に最大の努力を傾けている。まもなく最後の大きい欺瞞がわれわれの前に展開されようとしている。反キリストがわれわれの目の前で驚くべき業を行なうのである。偽物があまりにも本物によく似ているために、聖書による以外には両者の見分けは不可能である。すべての言説や奇跡は、聖書のあかしによって吟味されなければならない。」（各時代の争闘下巻 358, 359）

c. すべての新しい預言者はどのように試されますか。また、それはなぜですか（コリント人への第一の手紙 14:32；ヨハネによる福音書 10:27）。

「神のみ言葉を研究していると公言するある者の中には、最も明白な教えに真つ向から反対して生きているのが見いだされる。そして男女に言い訳の余地がないように、神は明白で鋭い証をお与えになり、彼らが従うことを怠ってきたみ言葉に立ち返らせられるのである。」（教会への証 5 巻 663）

「追加的な真理がもたらされることはない。しかし神は証を通してすでに与えられた偉大な真理を単純にし、ご自身が選ばれた方法で人々の前にそれを示し、それらをもって人の思いを目覚めさせ、印象づけて、すべての者が言い訳をする余地を残さないようにしてこられた。」（同上 665）

4. 内にある王国

- a. 単に歴史上の人物ではなく、たった今、わたしたちの生活の中で個人的な救い主を信じることが、なぜ重要なのでしょうか。説明しなさい（ヨハネの第一の手紙 4:1-3; エペソ人への手紙 3:17; コロサイ人への手紙 1:27; ヨハネによる福音書 15:4, 5）。

「キリストは人びとを教えておられた。そして、いつものように、弟子たちだけでなく他の人々もキリストのまわりに集まっていた。キリストは弟子たちに、彼らがやがて役割を演ずべき場面について語っておられた。彼らは、自分たちにゆだねられた真理を広く宣べ伝えなければならなかった。彼らは、この世の支配者たちと争うこととなるのも覚悟しなければならなかった。キリストのために彼らは法廷に立たされ、為政者や王たちの前に呼び出されなければならなかった。キリストは、だれも反論することができないような知恵を彼らに与えると保証なさった。群衆の心を感動させ、狡猾（こうかつ）な敵を論駁（ろんぱく）なさったキリストのみことばは、キリストの内に聖霊の力が宿っているのをあかししたが、キリストは彼に従う者にこの聖霊の力を約束なさった。」（キリストの実物教訓 228）

「み霊の内住は、天の愛があふれ出ることによってわかる。神の満ちた徳は、献身した代表者を通して流れ出て、人びとに与えられるのである。」（キリストの実物教訓 395）

「聖書の一文には人間の一万の考えや議論よりも価値がある。神の道に従うことを拒否する者は最終的には『行ってしまえ』という宣告を受けるであろう。しかしわたしたちが神の道に服従するとき、主イエスはわたしたちの思いを導き、唇を保証で満たしてくださる。わたしたちは主イエスのうちに、またこのお方の偉大な力のうちに強くなることができる。キリストを受けることによって、わたしたちは力をまとう。内住される救い主はご自分の力をわたしたちのものとしてくださる。真理がわたしたちの取引きの蓄えとなる。不義がその生活の中に見られることはない。わたしたちは真理を知らない人々に時宜にかなった言葉を語ることができる。心の中のキリストのご臨在は、命を吹き込む力であり、全存在を強める。」（教会への証 7 巻 71）

- b. どのようにモーセはキリストの個人的なご臨在が必要であることを認識しましたか（出エジプト記 33:13-16）。

「モーセは神の個人的なご臨在を深く感じていた。彼はキリストが肉において表れるようになる時代を通じて先を見ていただけでなく、彼はイスラエルの子らのすべての旅路に特別な方法で共におられるキリストを見たのであった。彼にとって神は現実であり、彼の思いの中に常におられた。誤解された時、危険に直面し、キリストのために侮辱に耐えるように召されたとき、彼は報復することなく耐えた。モーセは自分にとって必要なお方として、また彼の必要のゆえに助けて下さる方として神を信じていた。神は彼にとっていと近き助けであられた。」（同上 5 巻 651）

5. 率直な証

- a. 世俗に関して、神の見解は何でしょうか（ヨハネの第一の手紙 4:5; ヤコブの手紙 4:4）。

「世を教会に持ち込んでではなく、また教会と結婚して結合の絆を形成してはならない。このような方法を通して、実に教会は墮落していくのである。」（牧師への証 265）

「わたしたちは世と何の結合も持たないのであるか、との質問がなされるかもしれない。主の言葉がわたしたちの導きである。異教徒や不信者とわたしたちとを同一視するどのような結びつきもみ言葉の中で禁じられている。わたしたちは彼らの間から出てきて、分離していなければならない。いかなる場合でもわたしたちは彼らの働きの計画に自らを結び付けてはならない。しかしわたしたちは隠遁生活を送るのではない。わたしたちはできる限りの善を世の人々に行わなければならない。」（福音宣伝者 394）

- b. なぜ世との一致が不可能なのでしょう。またこの点における預言者の目的は何ですか（コリント人への第二の手紙 6:14-18; エゼキエル書 44:23）。

「今問われるべき質問は、キリストに従うと公言している者たちが、祝福が宣言される条件に従っているかということである。彼らは霊においても習慣においても世から分離しているであろうか。世俗的な習慣や風習から出てきて分離しているということはどれほど難しいことであろう。しかしサタンが偽りの描写によってわたしたちを魅了したり欺いたりすることがないように、このことに気を付けていよう。ここに永遠の利益が含まれている。神の主張が第一に来るべきである。このお方のご要求がわたしたちから第一に注目を受けるべきである。墮落したアダムの子らはみな、変化させるキリストの恵みを通して、神のすべてのご要求に対して従順にならなければならない。多くの人々は、十字架が直接その道に立っているがゆえに、このお方のみ言葉の明白な教えに目をつぶってしまう。もし彼らが十字架を掲げるなら、世の人々の目に異常に見えるに違いない。そこで彼らはためらい、疑問を抱き、十字架を避けるために何らかの言い訳を探すのである。サタンはいつでも準備ができており、神のみ言葉に書かれている通りに従うことが最善ではないというもっともらしい理由を提示する。こうして魂は致命的に欺かれるのである。」（レビュー・アンド・ハルド 1885 年 8 月 25 日）

個人的な復習問題

1. 信者の生活において、なぜ交わりがそれほど重要なのですか。
2. 預言の霊の目的は何ですか。
3. 預言者をどのように試し、わたしたちはその結果をどのように扱うべきでしょうか。
4. 内住しておられるキリストはわたしたちのクリスチャン経験に、どのような影響を与えますか。
5. どのように神の真の預言者は神の民に世から分離するよう教えますか。

預言者たちを試す

暗唱聖句：「主はひとりの預言者によって、イスラエルをエジプトから導き出し、ひとりの預言者によってこれを守られた。」（ホセア書 12:13）

「説教は魂の救いのためになすべき働きのほんの一部である。神の御霊は罪びとに真理の確信を得させ、そして彼らを教会の腕の中においてくださる。牧師たちは自分たちの役割を果たすかもしれないが、彼らは教会がすべき働きを行うことは決してできない。」（教会への証 4 巻 69）

「説教は魂の救いのためになすべき働きのほんの一部である。神の御霊は罪びとに真理に対する罪を宣告し、そして彼らを教会の腕の中においてくださる。牧師たちは自分たちの役割を果たすかもしれないが、彼らは教会がすべき働きを行うことは決してできない。」（教会への証 4 巻 69）

推奨文献： 教会への証 4 巻 227-246 巻

日曜日

9月17日

1. 迫害と犠牲

- a. 真の預言者は何を耐えなければなりませんか。またそれはなぜですか（ヤコブの手紙 5:10; 列王紀上 18:17, 18）。

「主から素晴らしいものを見ることを許されたイザヤは、ユダヤ国民の罪を忠実に譴責したためにのこぎりで引かれた。主のぶどう園の世話をしに来た預言者たちは、まさに撃たれて殺された。彼らは、『石で打たれ、さいなまれ、のこぎりで引かれ、剣で切り殺され、羊の皮や、ヤギの皮を着て歩き回り、無一物になり、悩まされ苦しめられ』た。彼らは世から価値のない者とされた。彼らは残酷な扱いを受け、世から抹殺された。」（SDA バイブル・コメント [E.G. ホット・コメント] 4 巻 1137）

- b. 世の終わりの時まで真の預言者が存在することを何が確認していますか。また彼らはどのように試されなければなりませんか（マタイによる福音書 7:15-20; ヨハネの第一の手紙 2:4）。

- c. なぜ真の預言者は教会において祝福なのですか（エペソ人への手紙 4:8, 11-16）。

「信徒たちのキリストとの一致は、自然の結果としてお互いの一致へと導き、その一致の絆はこの地上において最も永続的なものである。…わたしたちが御霊の実を結ぶことができるのは、キリストとの個人的な結合によって、毎日、毎時間このお方と交わることによってのみである。」（教会への証 5 巻 47, 48）

「一致はクリスチャンの完全の確かな結果である。」（きよめられた生涯 85）

2. 奇跡を働く

- a. 奇跡を働くことは、真の預言者の試金石ですか（ルカによる福音書 7:26-28; ヨハネによる福音書 10:41）。

「天使たちによって天と地の間に交わりが絶えずなされるであろう。サタンは悪天使たちに囲まれ、自分が神であると主張し、可能であれば選民をも惑わすために、あらゆる種類の奇跡を働くであろう。神の民は奇跡を働くことに安全を見出すことはできないであろう。なぜならサタンがこれから起こる奇跡を偽造するからである。テストされ試された神の民は出エジプト 31 章の 12 節から 18 節で語られているし、そのうちに自分たちの力を見出すであろう。彼らは『こう書かれている』という生きたみ言葉に自分の立場を取らなければならない。これこそ彼らがしっかりと立つことができる唯一の土台である。神との契約を破った者はその日に神もなく希望もない者となるであろう。」（教会への証 9 巻 16）

- b. だれが終わりの日に行われる奇跡を最大限に用いますか（ヨハネの黙示録 19:20; 13:14）。

「サタンは諸事件を注意深く見張っており、神の真理に対して特別に強い反対の精神を持っている者を見つけると、その者の心の中で自分の座をより強固に確保するために、成就していない出来事まで表すであろう。被造物をご自分の手中にお持ちになっているお方との戦いに躊躇なく立ち向かった者は、迫害し、欺く悪意を持っている。彼は現代において、死すべき人類を自分の罠の中にとらえているのである。」（教会への証 2 巻 171, 172）

- c. なぜ今日、これほど多くのテストをする必要があるのでしょうか（コリント人への第二の手紙 11:14）。

「心霊術が現代の名ばかりのキリスト教をますますそっくりまねるようになるにつれて、それは人々をだまし、わなにかけるのに、いっそう大きな力を持つようになる。サタン自身も、近代的な形態に応じて姿を変える。彼は光の天使を装って現われる。心霊術を通して奇跡が行なわれ、病人はいやされ、否定することのできない多くの不思議なことが行なわれる。そして悪霊が聖書に対する信仰を告白し、教会の諸制度に敬意をあらわすので、そうした 霊の働きは神の力の現われとして受け入れられる。」（各時代の争闘下巻 350）

「わたしたちは危険な時代に生存しており、そのため真理であると主張されるすべてを徹底的に吟味せずに受け入れることはわたしたちにふさわしくない。また神の御霊の実を結ぶものを拒否する余裕もない。わたしたちは教えを受けやすく、柔和で謙遜な心を持っていなければならない。自分たちの考えと調和しないものをすべて反対する者たちがいる。そしてそうすることによって彼らはユダヤ国民がキリストを拒んだのと同じように永遠の利益を危険にさらしているのである。」（著者と編集者への勧告 35, 36）

3. 成就した預言

a. 神はどのように人類に語られますか (民数記 12:6)。

「人類歴史における最初の 2500 年間は、書かれた啓示というものはなかった。神から教えられた人々が、その知識を他の人々に伝え、それが父から子へと、次の世代に伝えられていった。神のみことばを書きしるすことは、モーセの時代に始まった。靈感による啓示は、その時靈感の書の中に書きあらわされた。この働きは、創造と律法についての歴史家であるモーセから、福音の最も崇高な真理を記録したヨハネにいたるまで、1600 年の長い間にわたってつづけられた。…」

聖書は、時代が異なり、身分や職業、また知的霊的な才能も広く異なっている人々によって書かれたので、その中の諸書は、そこに示されている主題の性質が異なっていると同時に、その文体にもいちじるしい対照がみられる。それぞれ異なった記者によって、それぞれ異なった表現形式が用いられている。同じ真理を、ある記者は他の記者よりも特にめだって強調していることがよくある。幾人かの記者が、異なった角度と関連から一つの主題を示しているので、浅薄に、不注意に、あるいは偏見をもって、これを読む者には、相違や矛盾があるように思われるかも知れないが、思慮深い、敬虔な者が、はっきりした眼でこれを読めば、その根底には調和があることに気づくのである。

真理は、いろいろな人によってあらわされているので、いろいろな角度から示されている。ある記者は問題のある一面に特に強い感動を受けている。彼は、自分の経験や自分の知覚力、認識力に合う点を把握している。またある者は、これとは異なった一面を把握している。そしておのおのは、聖霊のみちびきのもとに、自分の心に最も力強く訴えるものを示しているのである。すなわち、それぞれに真理の異なった一面をもっているが、しかしそこには、全体を通じて完全な調和がみられるのである。このようにしてあらわされた真理は、結合して完全な全体を構成し、人生のあらゆる境遇と経験の中にある人々の要求にこたえるのに適したものとなっているのである。」(各時代の斗争闘上巻序文 (1) - (3))

b. 預言者が予告するとき、わたしたちは何を期待できるでしょうか (エレミヤ書 28:9)。わたしたちは今日プロテスタントとカトリックが結合しているのを見るとき、一世紀以上前になされた予告が今どのように成就しているのでしょうか。

「プロテスタント主義が深淵を越えてローマの権力の手をにぎるために伸ばすとき、教会が心霊術と手を結ぶために淵を越えるとき、そのとき、この三重の結合の感化力の下、わが国はプロテスタントと共和国統治としての憲法のすべての原則を否認することになる。そして法王権の偽りと惑わしを宣伝するためにあらゆる備えをするようになる。そのとき、わたしたちはサタンのおどろくべき働きのための時が近いこと、また終わりが近いことを知ることができる。」(教会への証 451 巻)

4. 預言の霊の目的

- a. 終末が近づくにつれて、わたしたちは何を予期することができるでしょうか。またわたしたちはこれらの危険にどのように対処すべきでしょうか（テモテへの第二の手紙 3:1; イザヤ書 59:19, 20）。

「わたしたちは非常に危険な時代に生存している。すべての人の信仰を試す異端や偽りの教理が入り込み、うつりゆく光景のただ中で、堅い岩の上に建てられた家は揺さぶられることがない。しかし嵐と暴風雨が来ると、砂の上に建てられた家は倒れ、その倒れかたはひどいのである。

であるから、どのように建てるかに注意しよう。だれも無分別に建てることがないようにしよう。神のみ言葉がわたしたちの唯一の基礎である。あらゆる見せかけの誤りがわたしたちを襲うであろう。これらの誤りの中には非常に真実らしくまた魅惑的であるが、もしそれが受け入れられるならば、それらはキリストが建てられた土台の柱を取り除き、人間の建てる建造物をそこに打ち立てるのである。…サタンの導きの下に彼らは人間の思いのために、偽りの土台を用意する。」（医事伝道 87）

- b. どのように預言者は教会を助けますか（列王紀下 6:8-12; コリント人への第一の手紙 14:22; エペソ人への手紙 4:12）。

「神はわたしにご自分の働きに関連して、際立った厳粛な経験をお与えになった。そしてあなたがたはたしかにわたしが命が続く限り、人々が聞いても聞かなくても、また彼らが耐えても耐えなくても、神の御霊の感銘を受けたとおりに警告の声を上げることがやめることはないと確信してもよい。わたしは自分のうちに特別な知恵を持ってはいない。わたしは主がわたしにするように命じられた働きをなすための主の御手のうちにある道具にすぎない。わたしが筆や声で与えてきた指示は、神がわたしに与えてこられた光の表現である。わたしはあなたがたの前に、神の御霊が長年にわたってわたしの思いに感銘を与え、わたしの心に書かれた原則を置こうと努めてきた。

そして今、兄弟たちよ、わたしはあなたがたにわたしと民との間に入って、神が彼らに与えようとなされた光をそらそうとしないように懇願する。あなたの非難によって、証から一切の力強さ、要点と権威を取り除こうとしてはならない。自分自身の考えに合わせるためにそれらを分解できると感じてはならない。神があなたに、何が天からの光であり、また何が単なる人間の知恵の表現であるかを識別する能力を与えて下さったと主張してはならない。もし証が神のみ言葉によらないことを語っているなら、それらを拒みなさい。キリストとベリアルになんの一致があるか。キリストのために、民の心を人間の詭弁や懐疑論で混乱させたり、主がなさろうとする働きを効果のないものにしてはならない。あなたの霊的識別力の欠如によって、この神の代理を、多くの人がつまづき倒れるようなさまたげの岩としてはならない。」（教会への証 5 巻 691）

5. はじめに

- a. だれが預言者を試すべきですか（コリント人への第一の手紙 12:28）。
- b. 同じ預言者が、真実であり、また偽りでもありえますか。説明しなさい（ヤコブの手紙 3:11）。

「信仰を告白する者の中には証の特定の部分は神のメッセージとして受け入れる一方では、自分たちのお気に入りの放縱を非難する部分は拒む者がある。そのような者たちは自分たち自身の幸福と教会の幸福に反するような働きをしているのである。重要なことは光がわたしたちの間にあるうちに光の中を歩むことである。健康改革を信じると主張していながら、日常生活の行為において、行いはその原則に反する者は、自分の魂を傷つけ、信者や未信者に誤った印象を残すのである。」（教会への証 9 巻 154）

- c. 預言者が神から遣わされた者だと認識したとき、わたしたちはどうすべきですか（歴代志下 20:20; ホセア書 12:13; 詩篇 34:8）。

「神は十分な証拠を与えて下さっているのです、そうしたいと望む者はすべて証の性格について彼ら自身満足することができるのである。そしてそれらが神からのものであることを認めたのであるなら、それがたとえ彼らが自分たちの道の罪深さを見ていなくても、譴責を受け入れることが彼らの義務である。もし彼らが自分たちの状態を十分に認識しているならば、譴責の必要性は何であろうか。彼らはそれを知らないがゆえに、神は憐れみ深くも彼らの前にそれを置き、彼らが遅くなる前に悔い改め改革することができるようになさるのである。」（同上 5 巻 682）

「過去 30 年間のわたしの働きには、神の印かまたは敵の印が押されている。この問題に中途半端なものはない。証は神の霊からのものであるか、または悪魔のものであるかである。」（同上 4 巻 230）

個人的な復習問題

1. なぜ純粋な真理を教える者はしばしば迫害に直面するのでしょうか。
2. なぜ終末時代には奇跡が試すための要点とはならないのでしょうか。
3. 神は預言者にお伝えになるためにどのような方法をお用いになりますか。
4. なぜ今日わたしたちは預言の霊が必要なのでしょう。
5. 預言者が神からだと認めるとき、わたしたちは何をすべきでしょうか。

イエスの証

暗唱聖句：「龍は、女に対して怒りを発し、女のすえの残りの子ら、すなわち、神の戒めを守り、イエスのあかしを持っている者たちに対して、戦いをいどむために、出て行った。」(ヨハネの黙示録 12:17 欽定訳)

「キリストの中にあらわされている神の知識は、救われた者が皆持たねばならないものである。それは品性を変化させる知識である。この知識を受けるとき人間は神のかたちに似て再創造される。それは全身に神聖な霊の力を与える。」(ミストリー・オブ・ヒーリング 401)

推奨文献： 各時代の争闘下巻 358-370

日曜日

9月24日

1. 交わり

- a. 神は初めにどのようにして人類と交わられたのでしょうか。また何が原因でこれが途絶えましたか (創世記 3:8-10; イザヤ書 59:2)。なぜそれが重要ですか (ヨハネによる福音書 17:3)。
- b. 神は預言者に伝えるべきメッセージをどのように与えてくれましたか。またなぜこれらが必要だったのでしょうか (創世記 18:18, 19; ペテロの第二の手紙 1:21; コリント人への第一の手紙 1:18-24)。

「聖書は単純に、また人間の心の必要と切望に完全に適応して真理を明らかにしている。こうして最も教養のある者の心を驚かせ魅了してきた一方、謙遜で教養のない人々が救いの道を見分けることを可能にしてきた。それにもかかわらずこれらの単純に述べられた真理は非常に崇高であり、非常に広範囲に及び、人間の理解の力を無限に超えている主題を取り扱っている。わたしたちがそれを受け入れることができるのは、ただ神がそれらを宣言なさったという理由のゆえである。このようにして贖いの計画がわたしたちに開かれ、すべての魂が神の定められた方法で救われるために、神に対する悔い改めとわたしたちの主イエス・キリストに対する信仰においてとるべき段階を見ることができるようになる。しかし非常にたやすく理解できるこれらの真理の下には、神の栄光を秘めた神秘一人の思いが調べるうちに圧倒されるが、なお真理のまじめな探究者には敬神と信仰を吹き込む神秘一が横たわっているのである。聖書を調べれば調べるほど、これは生ける神のみ言葉であるという彼の確信は深まるのである。」(教会への証 5 巻 700)

- c. 神の民のうち何人が預言者になるべきでしたか (民数記 11:24-29)。

2. シナイ山

- a. イスラエル人に律法を伝える時が来たとき、どのように神は彼らに伝達されましたか (申命記 5:22-24)。

「主は、そのときにおいても、忘れることの早い人間の記憶に主の戒めをゆだねることをせず、それを石の板に書かれた。主は、イスラエルが、ご自分のきよい戒めに異教の伝説を混合したり、あるいは主の律法を人間の法令や習慣と混同したりすることが全くないようにされた。しかし、主は、ただ十誡の戒めを彼らに与えただけでやめられなかった。人々は、すぐに誤った方向に惑わされるために、主は、一つでも誘惑の戸をあけておかないようにされた。モーセは、神がお命じになるままにおきてを書き、その要求項目を細かく人々に教えるように命じられた。人間の神と同胞に対する義務、そして、他国人に対する義務に関するこのような教えは、十誡の原則を単に拡大、明細にしたものであって、だれも考えちがいをしないようにするためであった。これらは、石の板に書かれた十の戒めの神聖さを守るためのものであった。

アダムが墮落後に、神から与えられ、ノアが保存し、そしてアブラハムが守った神の律法を人間が遵守していたのであれば、割礼の儀式的必要はなかったはずであった。そして、もしもアブラハムの子孫が契約を守り、そのしるしの割礼を行っていたのであれば、偶像礼拝にまどわされたり、エジプトの奴隷生活に苦しむ必要もなかったのである。彼らは、神の律法を心の中にたくわえていて、それをシナイから宣言されることも、石の板に刻まれることも必要がなかったことであろう。そして、人々が十誡の原則を実行していたのであれば、モーセに追加的に指示が与えられる必要もなかったことであろう。」(人類のあけぼの上巻 431, 432)

- b. 律法はどこに存在するべきでしたか (申命記 5:29; 6:5; コリント人への第二の手紙 3:3)。
- c. 人々は律法の中で何を認識するのに失敗したのでしょうか (出エジプト記 20:13; ヨハネの第一の手紙 3:15)。

「絶え間ない違反の結果、道徳律がシナイから恐るべき威光のうちに繰り返された。キリストはモーセに、日常生活を支配すべき宗教的な規則をお与えになった。これらの定めは、十戒を守るために明確に与えられた。それらはキリストの死で消滅する影のような型ではなかった。時が続く限り、それらは前時代の人々に対して拘束力を持つべきものであった。これらの命令は、道徳律の権威によって施行され、それらは明確にそしてはっきりとその律法を説明した。」(SDA バイブル・コメント [E.G. 叔仲・コメント] 1 巻 1104)

3. さらに多くの預言者

- a. なぜイスラエル人はさらに多くの預言者を必要とし続けたのでしょうか（士師記 6:7-10）。

「ヨシュアの教えを受けた世代がなくなってしまうまでは、偶像礼拝はほとんど広がらなかった。しかし、両親が子供たちの背信の道を開いた。カナンを占領した人々が、主の制限を無視したことが悪の種となり、その後、幾世代もの間、苦い果実を結び続けた。ヘブル人の単純な習慣は、彼らを肉体的に健康にした。ところが、異教徒と交際して食欲と情欲にふけり、徐々に体力を衰えさせ、知的、道徳的能力を弱めてしまった。イスラエル人は、自分たちの罪のために、神から離れた。神の力が彼らから去り、もはや、敵に勝てなくなった。こうして、彼らは、神によって征服するはずであったその国々に負けてしまったのである。…

しかし、主は、主の民を全くとお見捨てにならなかったのではなかった。常に、主に忠誠を尽くす残りの者が存在していた。主は、ときどき、忠実で勇敢な人々をお立てになって偶像礼拝をやめさせ、イスラエルを彼らの敵からお救いになった。しかし、救済者が死んでしまうと、人々は、彼の権力から解放されて、徐々に偶像に逆もどりするのであった。このようにして、神に反逆しては懲らしめを受け、告白しては救済されるという物語が、幾度もくり返されたのである。」（人類のあけぼの下巻 190, 191)

- b. 彼らがより深い背教へと陥ってしまったとき、何が起こりましたか。それはなぜですか（エゼキエル書 3:4-7; サムエル記上 28:6; 歴代志下 36:14-16; ルカによる福音書 11:47-51）。

「主は、真心からへりくだって、主のもとに来る魂を退けられることはない。主は、なぜサウルに返答を与えず、退けられたのであろうか。それは王が、彼自身の行為によって、神に問うことができるあらゆる方法の特典に浴されなくなったからであった。彼は、サムエルの勧告を拒否した。彼は、神が選ばれたダビデを追放した。彼は、主の預言者たちを殺した。天の神が定められた伝達の方法を切断しておきながら、神の答えを期待することができるであろうか。彼は、罪を犯して、恵みの霊を去らせてしまった。彼は、夢または主の幻によって答えを得ることができようか。サウルは、へりくだって悔い改め、神に立ち帰らなかった。彼が求めたのは、罪の許しや神との和解ではなくて、敵からの救済であった。彼は、自分自身の強情と反逆によって、神から切り離された。」（同上 359)

- c. 旧約聖書の最後の預言者は何を預言しましたか。またそれは 400 年近くも預言者がいない期間を経て、どのように部分的に成就したのでしょうか（マラキ書 4:5, 6; マタイによる福音書 11:11, 14）。

4. 新約聖書

- a. イエスが地上におられたとき、なぜ通常の預言者の必要がなかったのでしょうか（ヘブル人への手紙 1:1, 2; テモテへの第一の手紙 3:16; マタイによる福音書 1:23）。

「祭司はこの赤ん坊が、モーセによって『主なる神は、わたしをお立てになったように、あなたがたの兄弟の中から、ひとりの預言者をお立てになるであろう。その預言者があなたがたに語ることに、ことごとく聞きしたがいないさい』と書かれていたおかたであるとは思ひもかけなかった（使徒行伝 3:22）。彼はこの赤ん坊こそモーセがその栄光を見たいと願ったおかたであるとは、思ひもしなかった。ところが、モーセより偉大なおかたがこの祭司の腕にだかれておられたのである。祭司がこの子供の名前を名簿に記入したとき、彼はユダヤ人の制度全体の土台であるおかたの名前を書き入れていたのだった。その名はユダヤ人の制度を廃止する宣告となるのだった。いけにえと献げ物の制度はだんだん古くなっていったからである。型は本体に、影は実物にほとんど合っていた。」（各時代の希望上巻 40）

「これより前に、みたまは世におられた。あがないの働きの最初から、みたまは人々の心に働きかけておられた。しかしキリストが世におられる間は、弟子たちはほかの助け手を望まなかった。キリストの存在が取り去られてはじめて彼らはみたまの必要を感じるようになり、そのときみたまがこられるのであった。」（各時代の希望下巻 152, 153）

- b. 新約を旧約とどのように比較しますか。またそれについてわたしたちは何をすべきでしょうか（コリント人への第二の手紙 3:8; ヨエル書 2:28, 29; 使徒行伝 2:16-18; テサロニケ人への第一の手紙 5:19, 20）。

「犠牲の儀式の型と影は、預言と共にイスラエル人にキリストの啓示によって世にもたらされるべき憐れみと恵みについておおわれた不明瞭な見解を与えた。モーセにはキリストを指し示す型と影の意味が明らかにされた。彼はキリストの死によって型と本体が出会ったとき、取り除かれるべきものの終わりを見た。彼はキリストを通してのみ、人は道德律を守ることができることを見た。この律法の違反によって人はこの世に罪をもたらし、そして罪と共に死がやってきた。キリストは人の罪のために償いの供え物となられた。このお方は人の罪深さの代わりに、ご自分の品性の完全さを差し出された。このお方は不従順の呪いをご自分の身に負われた。犠牲と捧げ物はこのお方が払うことになっていた犠牲を前もって指し示していたのであった。殺された小羊は世の罪を取り除く小羊を象徴していたのである。…

キリストなしに、罪を犯した者は許しの希望なく呪いの下に取り残された。この奉仕そのものには何の栄光もなかったが、礼典律の型と影の中に表わされた約束された救い主が道德律を輝かしいものとなさったのである。」（レクテッドメッセージ 1 巻 237）

5. 終りの時

- a. ヨエルが神の最後の残りの民について語っていたことを、どのように知ることができますか。また新約聖書は預言の霊の必要性をどのように強化して述べているでしょうか（ヨエル書 2:32; ヨハネの黙示録 12:17; 19:10）。

「〔神は〕わたしたちにご自分の民へと担うべきメッセージを与えてこられた。30年間わたしたちは神のみ言葉を受け、それらを神の民に語り続けてきた。わたしたちは責任に震えおののき、その責任を多くの祈りと瞑想をもって受け入れてきた。わたしたちは神の大使として立ち、キリストに代って神と和解するように魂に嘆願してきた。わたしたちは神がご自分の民の危機をわたしたちの前に提示してこられたとおりに、危険について警告してきた。わたしたちの働きは神から与えられたものである。そうであれば、神が自分たちに送ってこられたみ言葉を、それらが自分の道を阻み、自分たちの過ちを譴責するからといって聞くことを拒む人々の状態はどうであろうか。もしあなたが神はわたしたちによって語られてはいないと全く確信しているなら、なぜあなたの信仰通りに行動し、この民ほど大変な欺瞞の下にいる民とは関わらないようにしないのであろうか。もしあなたが神の御霊の言われることに従って動いて来たのなら、あなたが正しくて、わたしたちが間違っているのである。神はご自分の教会を教え、彼らの過ちを譴責し、彼らの信仰を強めるか、そうならぬのかのいずれかである。この働きは神のものか、あるいはそうではないかである。神は何一つサタンと協力なさることはない。過去30年間のわたしの働きは、神の印かもしくは敵の印が押されている。この問題に中途半端なものはない。証は神の霊からのものであるか、または悪魔のものであるかである。自らを神の僕に反対して隊列を組むことによって、あなたは神のために働いているか、もしくは悪魔のために働いているのである。『あなたがたはその実によって彼らを見わけるのである』。あなたの働きはどの印を帯びているだろうか。あなたのとった方針の結果を厳しく調べることはそれだけの報いがあるであろう。」（同上4巻229, 230）

個人的な復習問題

1. 神との交わりがそれほど緊急なのはなぜでしょうか。
2. 民が単に記された律法の言葉以上に深い意味を理解すべきだという神のご意向は、どのように表されましたか。
3. どの時点で神は預言者を通してさらに多くの情報をお送りになりましたか。また彼らがそれを拒み続けたとき、何が起こりましたか。
4. 旧約における神の栄光の表れに比例して、新約はどのように受け入れられるべきですか。
5. 世の終わりの直前の時代にわたしたちは神から何を期待すべきでしょうか。

MEMO

第一安息日献金



7月1日

南アフリカ地方の伝道学校
のために
(4 ページ参照)

8月5日

世界総会教育支部のために
(30 ページ参照)



9月2日

アメリカ合衆国コロラド州ラン
パート・ビュー・ランチのために
(51 ページ参照)